

武雄市『防災とまちづくりに関する調査』報告

2022年2月に武雄市民の皆さまを対象に実施した『防災とまちづくりに関する調査』の主要部分の集計結果の報告をいたします。住民基本台帳から無作為に抽出した3,000人の方々に郵送法で調査票をお送りし、930の有効票を返送いただきました（回収率31.0%）。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

この調査は九州大学未来共創リーダー育成プログラム、及び、アジア・オセアニア研究教育機構と連携して実施している研究の一環です。

2022年7月14日
九州大学大学院比較社会文化研究院
三隅一人・里村和歌子

● I 地域のこと

◎質問：「あなたのお宅では、ご近所の人たちと、以下にあげるおつきあいをどの程度されていますか。」（図1）

ご近所とのつきあいの程度についてうかがいました。「立ち話」や「もののやりとり」は半数以上によってなされていますが、より深い交流になると「しない」方が多勢になります。とはいえ2～3割の方は活発に交流されています。

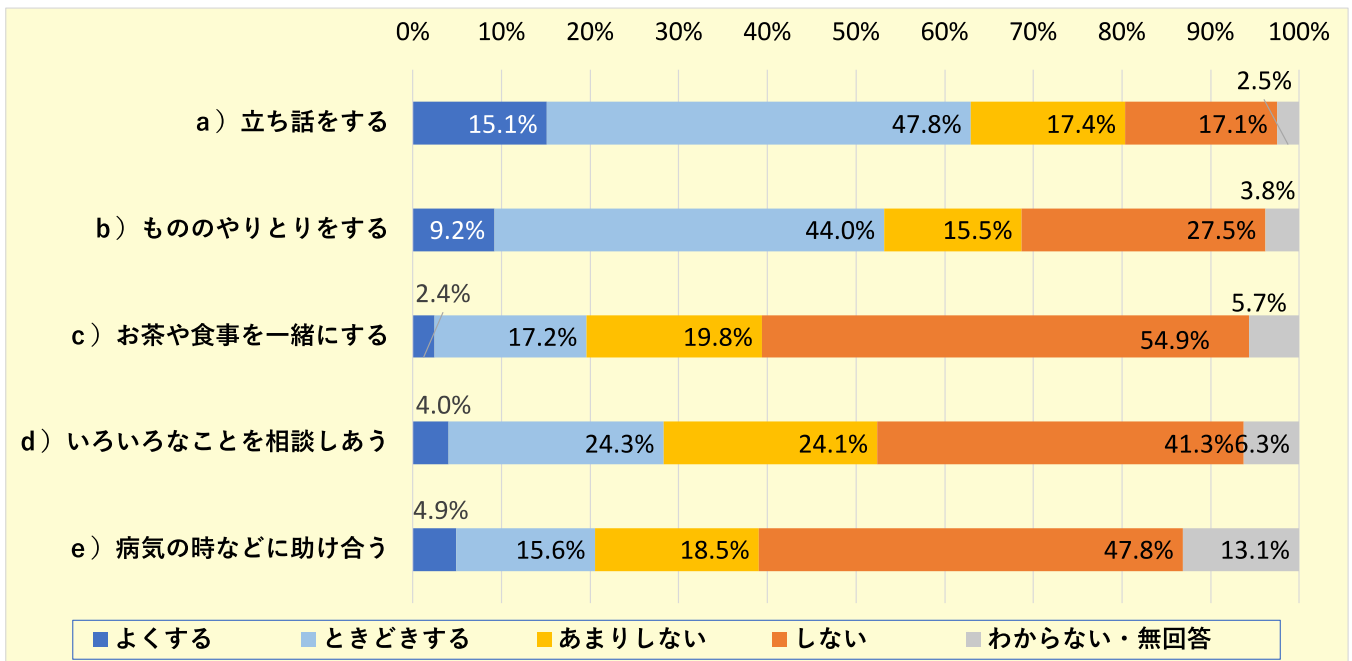


図1 近所とのつきあいの程度

◎質問：「あなたの友人（家族・親戚を除く）の中で、年に数回は会食をしたり一緒に余暇を楽しむような親しい人は、何人くらいおられますか。」（図2）

親しい友人数についてたずねました。5人以上の人が3割超いる一方で、「いない」もしくは「1人」という方も2割ほどいます。

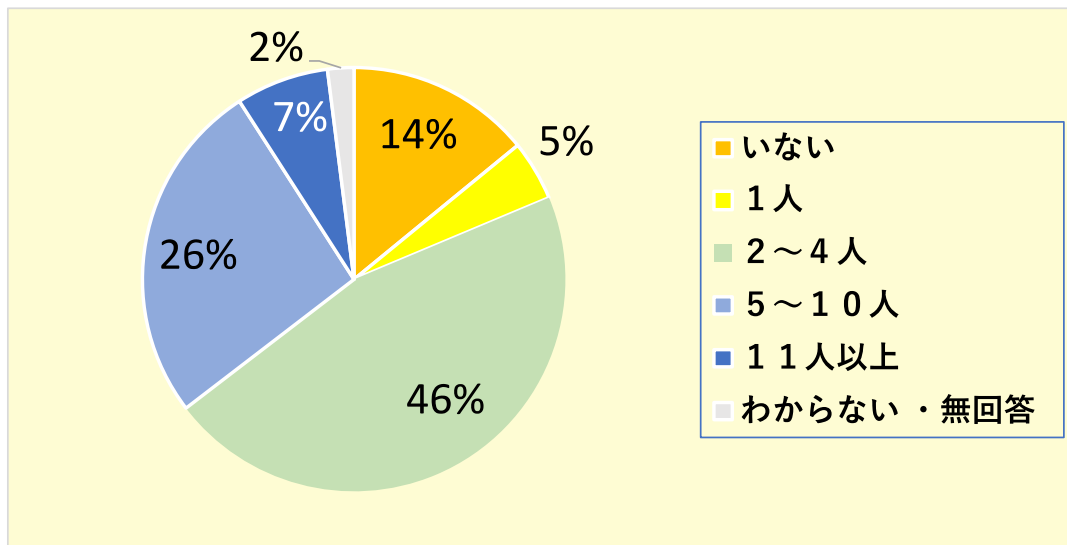


図2 親しい友人の数

ご近所づきあいの各項目を「する」4点～「しない」1点として5項目と合計して算出する近所づきあいスコアと親しい友人の状況は、年齢や居住形態によって異なります。図3に年齢別、居住形態別で、近所づきあいスコア（得点）と親しい友人数（人数）の平均値を比較しました。近所づきあいは60代、70代や戸建て住居で活発です。20代から50代の現役世代は近所づきあいが少ないですが、20代では親しい友人が多いです。持ち家集合住宅は近所づきあいが少なく親しい友人が多いですが、賃貸集合住宅では、近所づきあいも親しい友人数も少ないです。

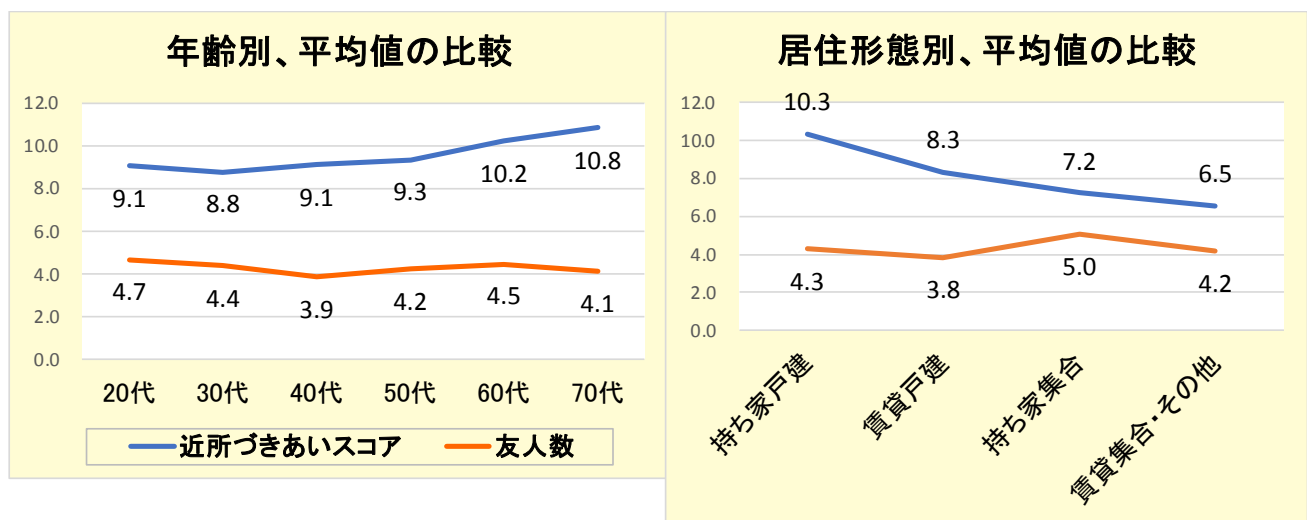


図3 年齢別と居住形態別にみた近所づきあいスコアと親しい友人数

◎質問：「以下にあげる団体やグループについて、ここ数年の間にあなたがその集まりや活動に参加したものがありましたら、いくつでもお教えてください。」（図4-1、図4-2）

さまざまな団体への参加を、参加率の高いものから示しました（回答者数に対するパーセント）。「自治会、町内会」が40%と最も多く、「趣味やスポーツ」が30%とつづきます。一方で「いずれにも参加していない」が2割を超えています。「婦人会、老人会等」や「三夜侍、六夜さん」等の地域組織への参加も活発です。

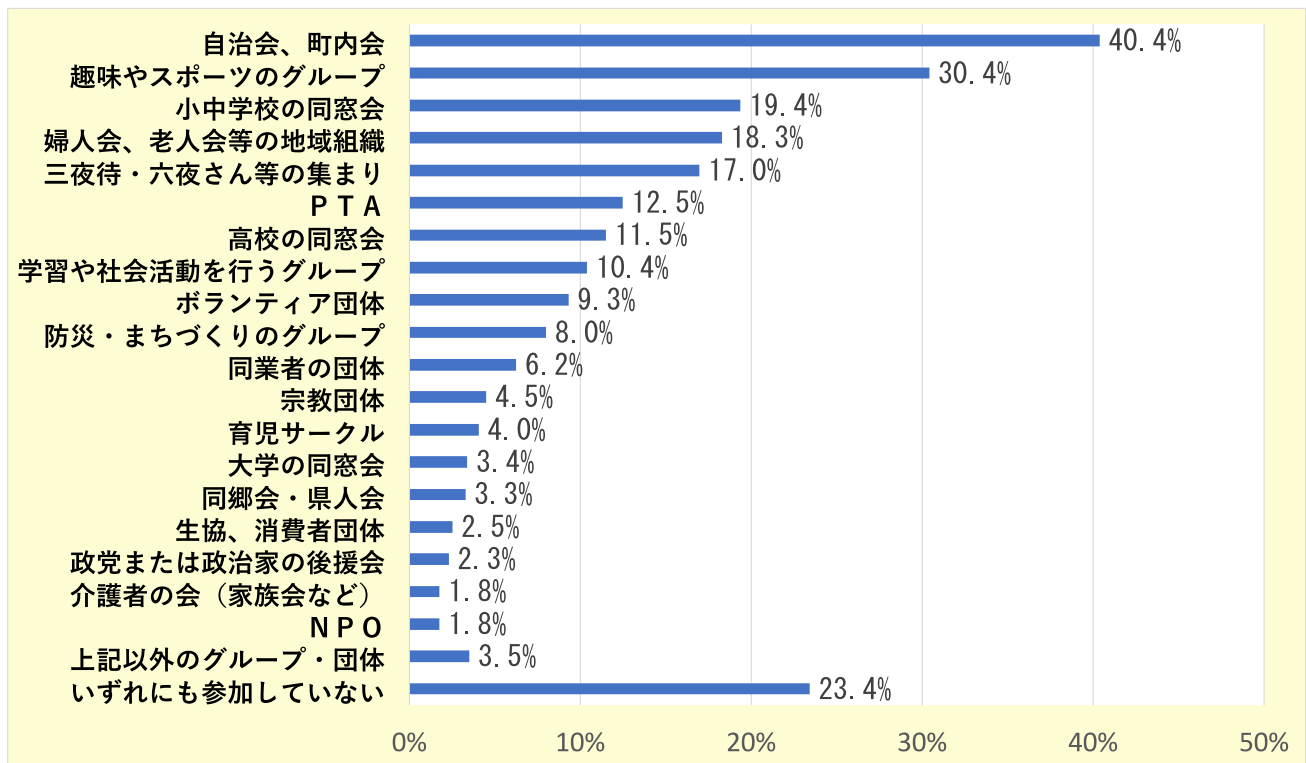


図 4-1 ここ数年の間で参加した集まりや活動

参加している団体の種類の数は平均 2.1 種類。年齢別で見ると、年代が上がれば上がるほど種類の数の平均が高くなります。70代が 2.9 種類と多いのに対し、20代が少なくなります。

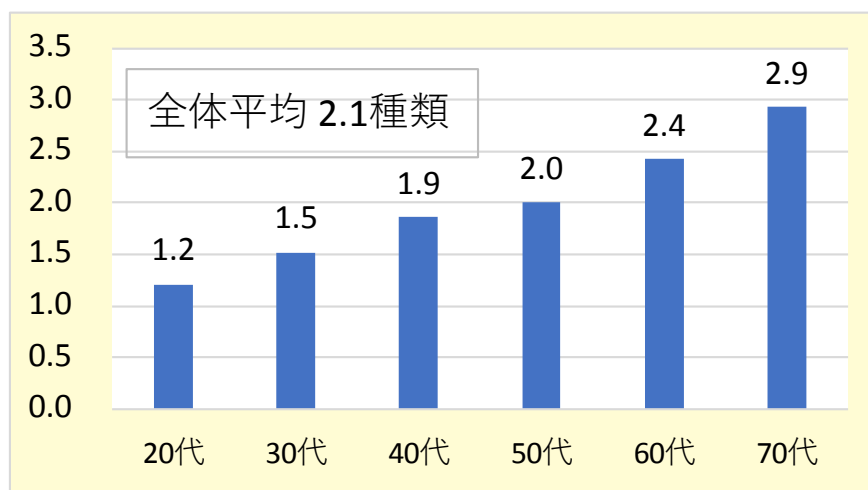


図 4-2 年齢別、参加している団体の種類数

◎質問：「あなたはふだん、以下にあげる活動をどの程度されていますか。」（図 5-1～図 5-4）

さまざまな地域活動、社会活動、市民活動、政治活動をどの程度されているかをうかがいました。「いつもしている」5点～「したことがない」1点として8項目を合計して、社会活動スコアを算出しました。全体平均は 21.3 ポイントで、年齢別で見ると、50代がもっとも得点が高く、60代、70代とつづきます。

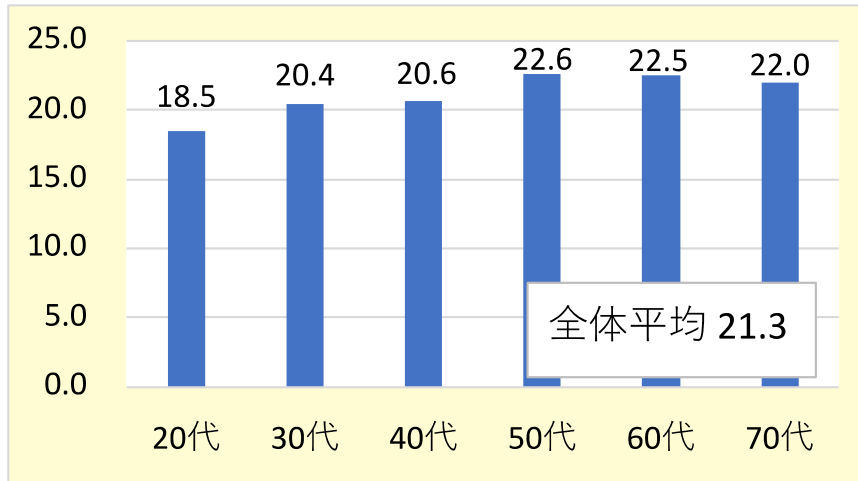


図 5-1 年齢別、参加している団体の種類数

個別にみていきます。地域活動では、程度にかかわらず「している」回答は「町内の行事や祭りの運営」は34%ですが、「地域の防災・まちづくり活動」はやや低く21%です。政治活動では、程度にかかわらず「している」回答は、「国政選挙や自治体選挙の投票」は74%と高いですが、「政治活動や選挙運動の支援」は14%に止まります。

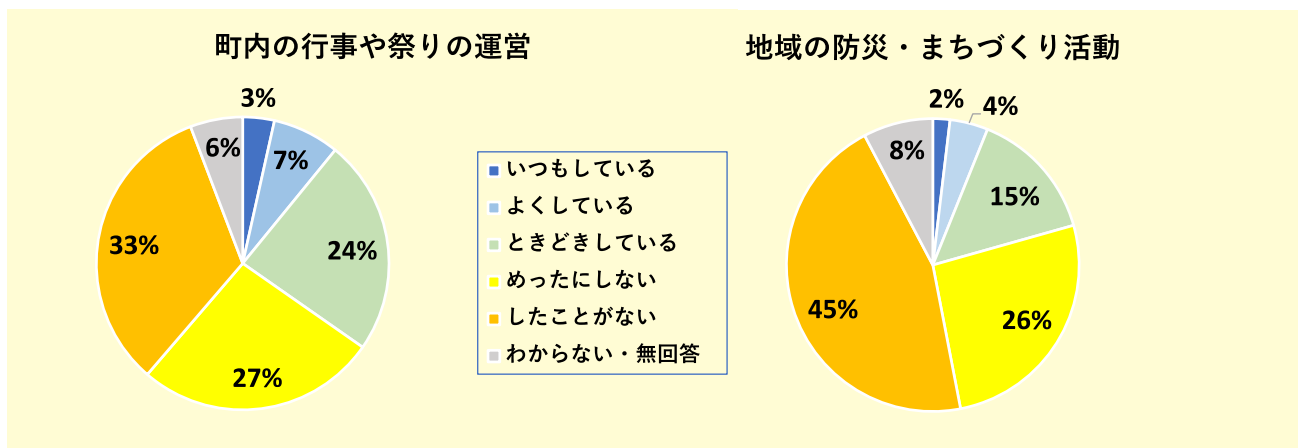


図 5-2 地域活動参加

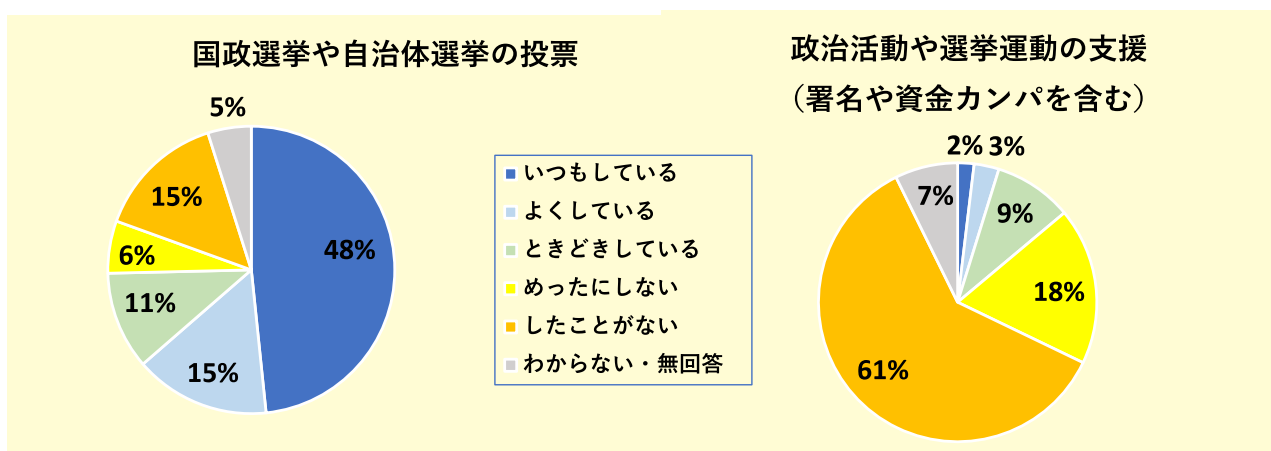


図 5-3 政治活動参加

社会活動、市民活動では、程度にかかわらず「している」と答えた割合は、「募金、義援金、献血」54%、「困っている人への声掛けや手助け」48%が高く、「ボランティア活動」24%、「同窓会や同郷会などの世話役」15%とつづきます。「市民運動への参加」はたった8%です。

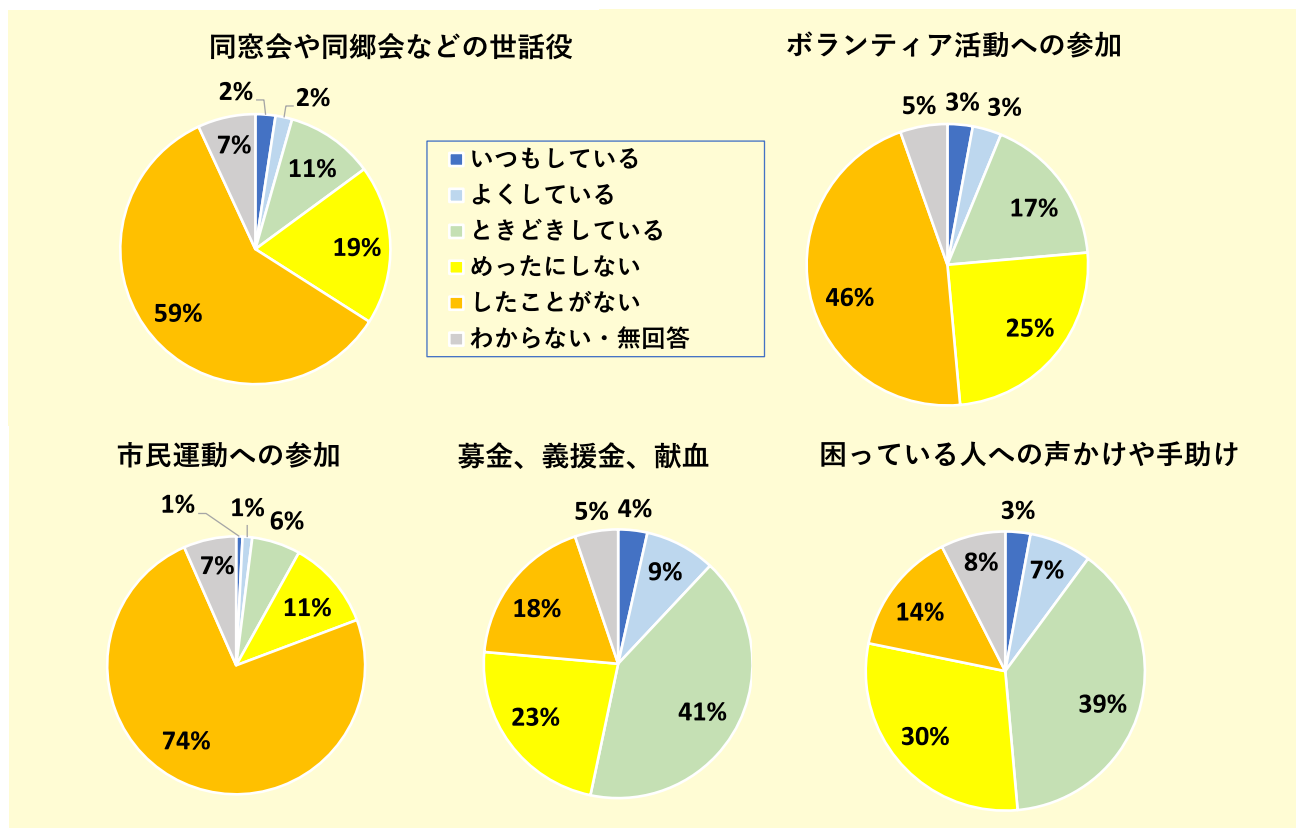


図 5-4 社会活動、市民活動参加

◎質問：「あなたがお住まいの地域について、以下にあげることをどう思われますか。」（図 6-1～図 6-4）

地域生活についてのお考えはどうでしょうか。まず、地域の評価について、程度を問わず肯定的な評価は、「地域は安心して暮らせる」は83%、「できれば、今の地域にずっと住んでいたい」（永住意思）も65%です。今回の調査では、武雄市での通算居住年数が20年以上の方が70%を占めています。

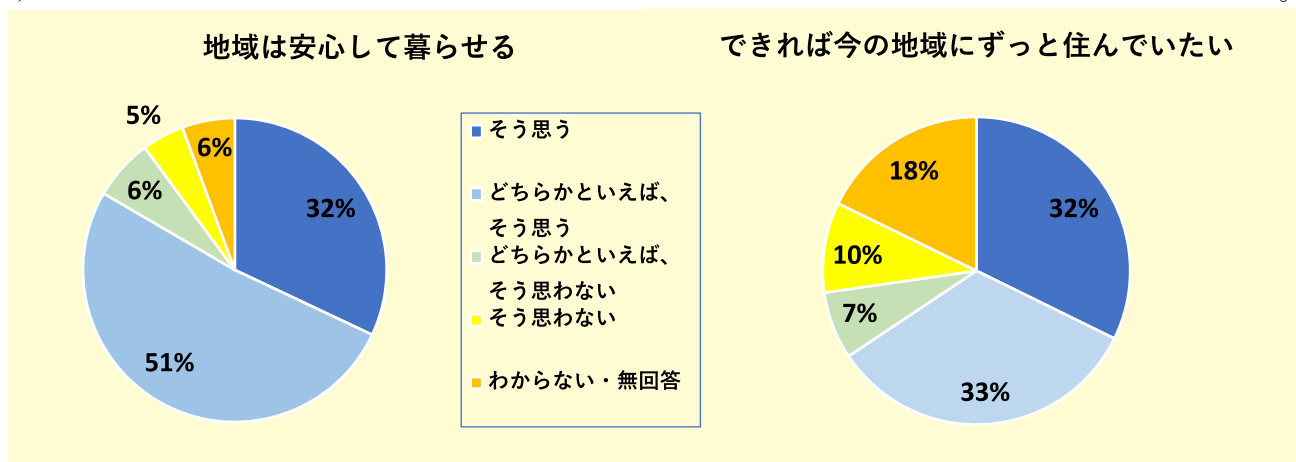


図 6-1 地域の評価

地域運営の評価についてはどうでしょうか。程度を問わず肯定的なご意見は「地域では皆が助け合っている」は64%、「信頼できる地域リーダーがいる」は45%で、「わからない」という回答も多くを占めます。

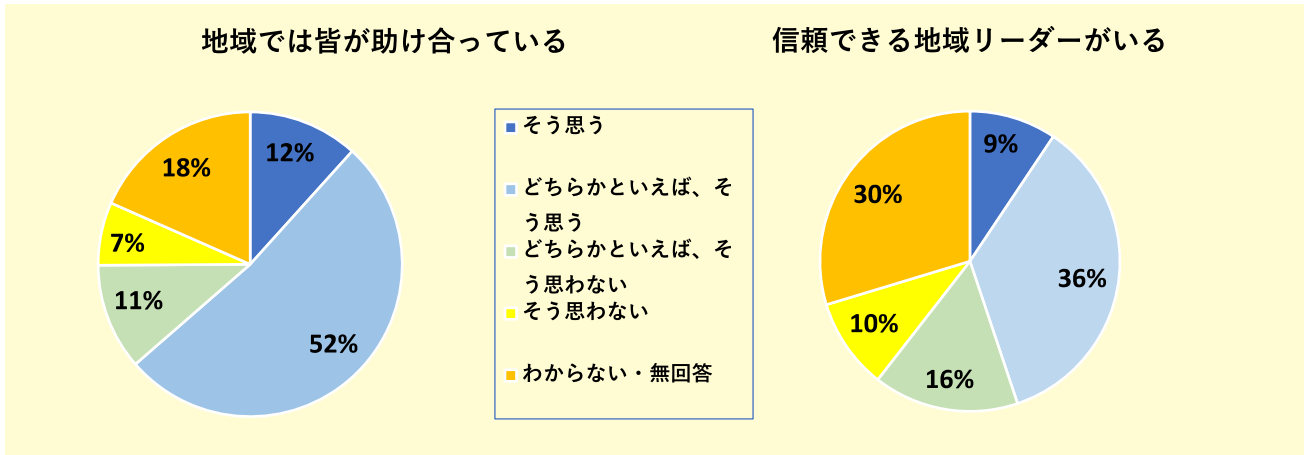


図 6-2 地域運営の評価

そこで前述の団体参加を、「自治体、町内会」「婦人会、老人会等の地域組織」「防災・まちづくりのグループ」の3つの地域団体を含めて参加<あり>のグループ、それら以外の団体に参加<あり>のグループ、そして団体参加まったく<なし>の3グループに分けてみます。すると、団体参加がない方や地域団体参加のない方に「わからない」という回答が多いようです。この3グループでは肯定的評価の比率も大きく異なってきます。

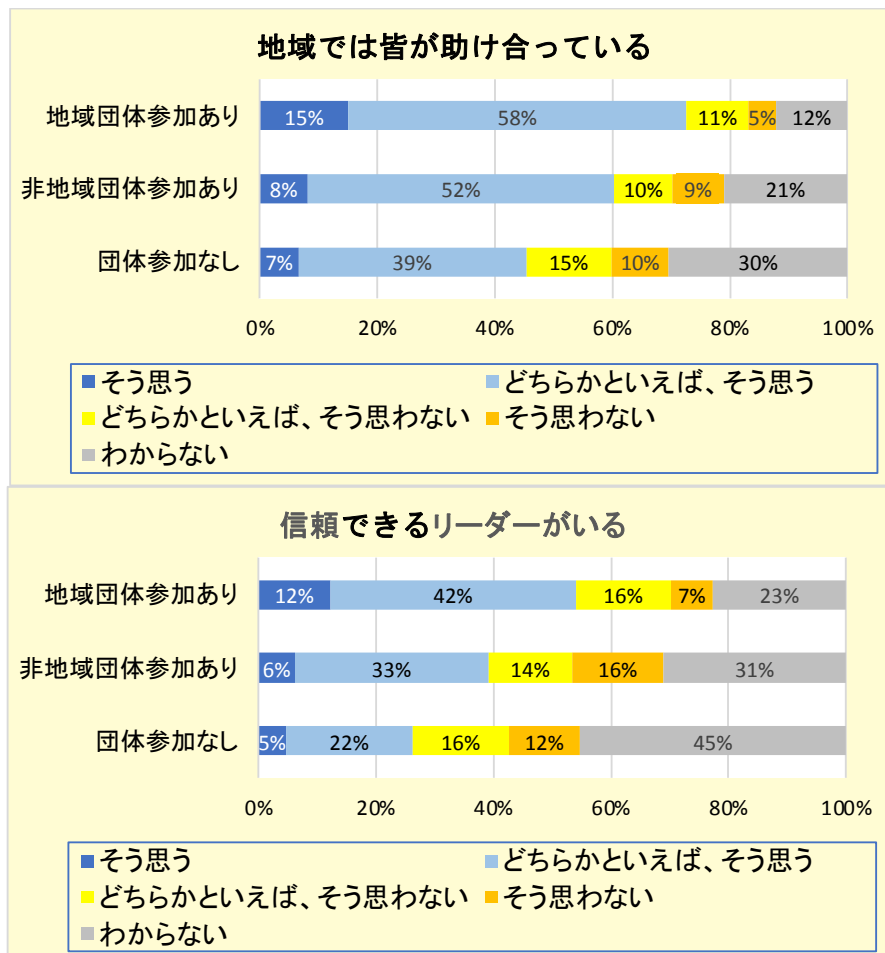


図 6-3 団体参加の有無と地域運営の評価

地域生活の負担感については、「地域の役回りや行事が負担に感じられる」では32%が、「近所づきあいがわずらわしく感じられる」では61%が、程度を問わず「そう思わない」という回答をしています。

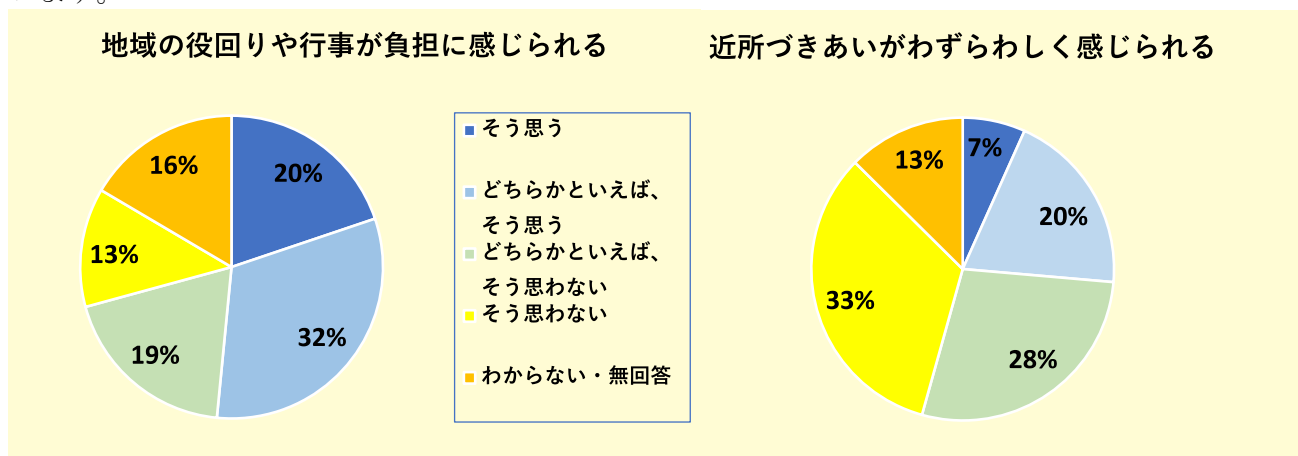


図 6-4 地域生活の負担感

●Ⅱ 令和3年(2021年)8月豪雨災害のこと =====

令和3年(2021年)8月豪雨災害についてうかがいました。

◎質問:「あなたのお宅での被災の状況をお教えてください。」(複数回答:図7-1、図7-2)

被災の状況をうかがいました。被災のうち河川(内水)氾濫による被害が半数以上となりました。橘・朝日・北方とそれ以外とで分けてみていきますと、前者における河川(内水)氾濫による被害がそれ以外の地区よりも顕著であったことがわかります。なお、パーセンテージは応答者数を基に計算しています。

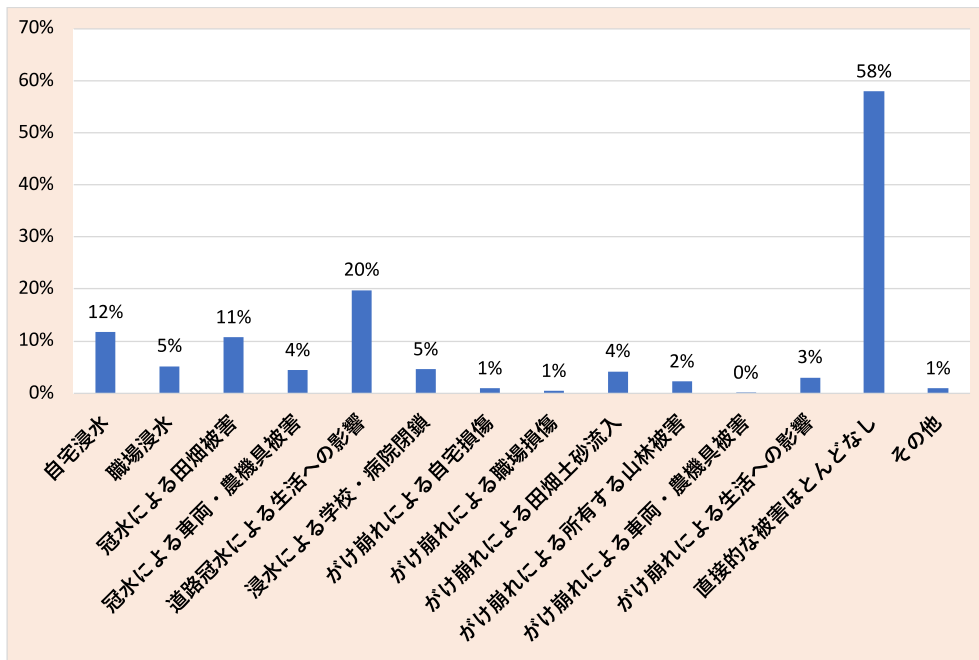


図7-1 令和3年8月豪雨災害での被災状況(全体)

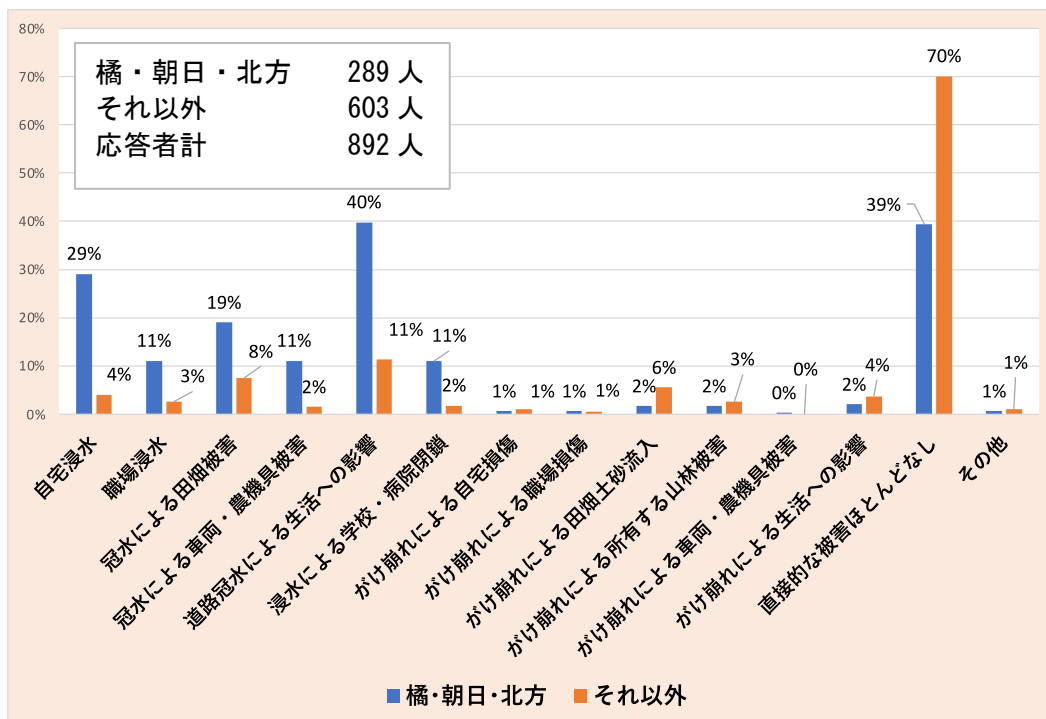


図7-2 令和3年8月豪雨災害での被災状況(地区別)

◎質問：「あなたは下記のような避難をされましたか。」(図 8-1、図 8-2)

避難したか否か、また、避難した方に避難した時期をうかがいました。全体で避難した方は 21%、避難しなかった方は 79%です。市の指定避難所に避難した方は 2%でした。こちらも橘・朝日・北方とそれ以外の地区に分けてみますと、前者では避難行動を取った方がより多かったことがわかります。

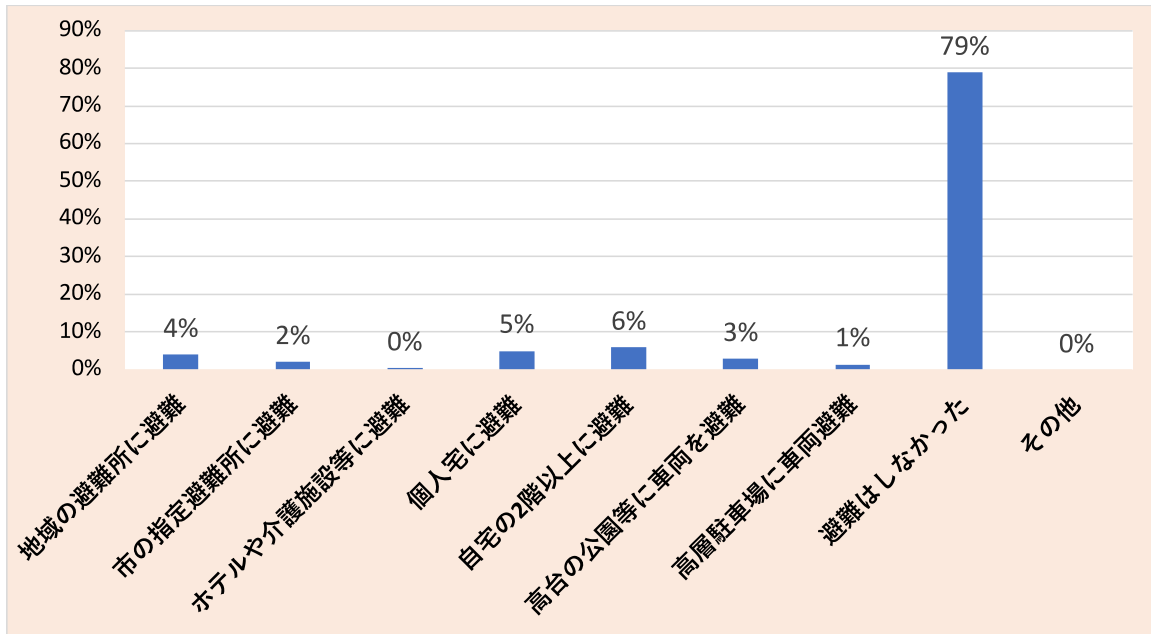


図 8-1 避難場所や方法 (全体)

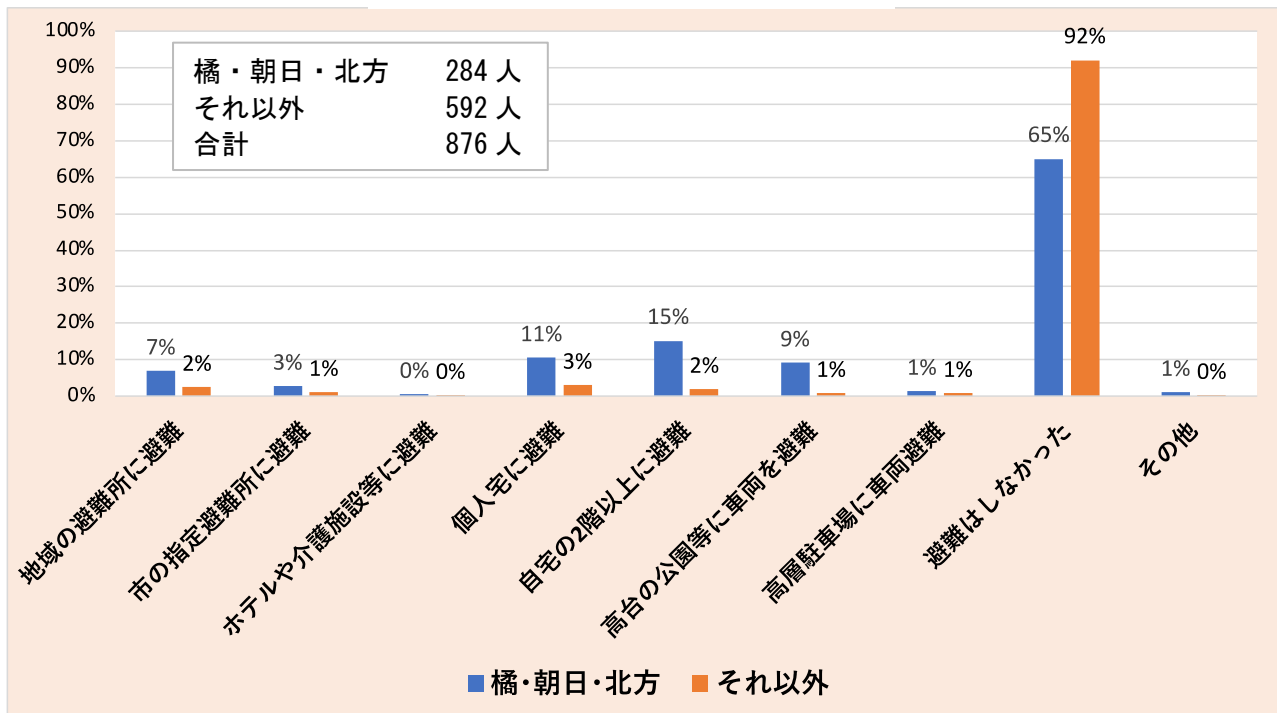


図 8-2 避難場所や方法 (地区別)

◎質問：「最初に避難した時期は、以下のどれに当てはまりますか。」(図 9)

避難した方 143 人のうち避難した時期は、指定避難所が開設され高齢者等避難が発令された 8 月

11日夕方頃が11%、土砂災害警戒情報が出され避難指示が発令された8月12日が14%、六角川・松浦川・高橋川の氾濫危険水位情報発表された8月13日が22%と最も高くなっています。つづいて大雨特別警報発表され緊急安全確保が発令され、六角川の排水ポンプが停止した8月14日の夜中～早朝が20%、六角川の越水が発生し、六角川排水ポンプが再停止した8月14日の日中に21%が避難されています。

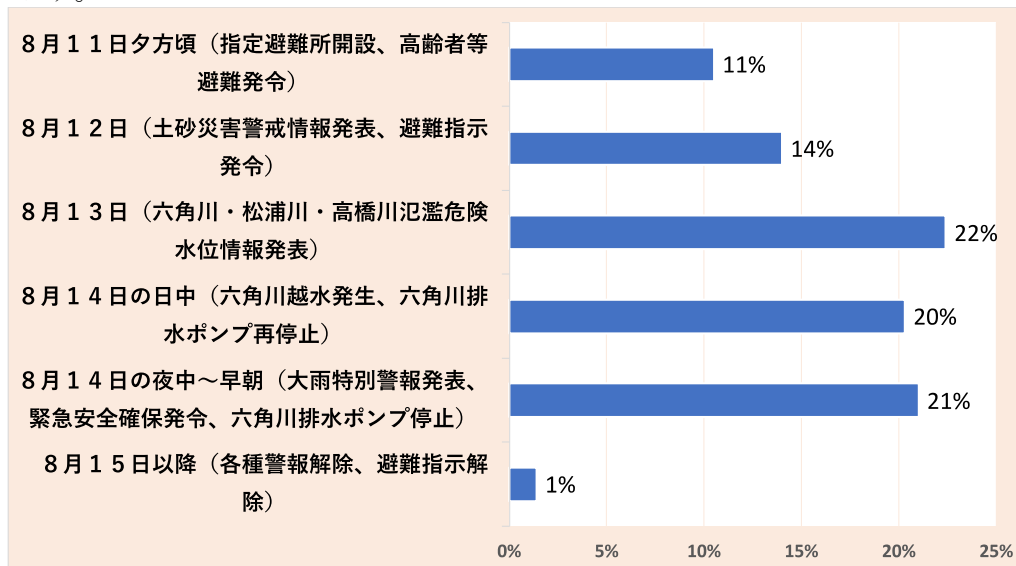


図9 最初に避難した時期

◎質問：「避難先（避難所や個人宅を含む）で不便に思ったこと等はありませんか。」（図10）
 避難先で不便に思ったことについてうかがいました。「プライバシーがなかった」が最多の18%、「床や寝床が硬く眠れなかった」、「周囲の雑音が気になった」がそれぞれ13%と続きました。

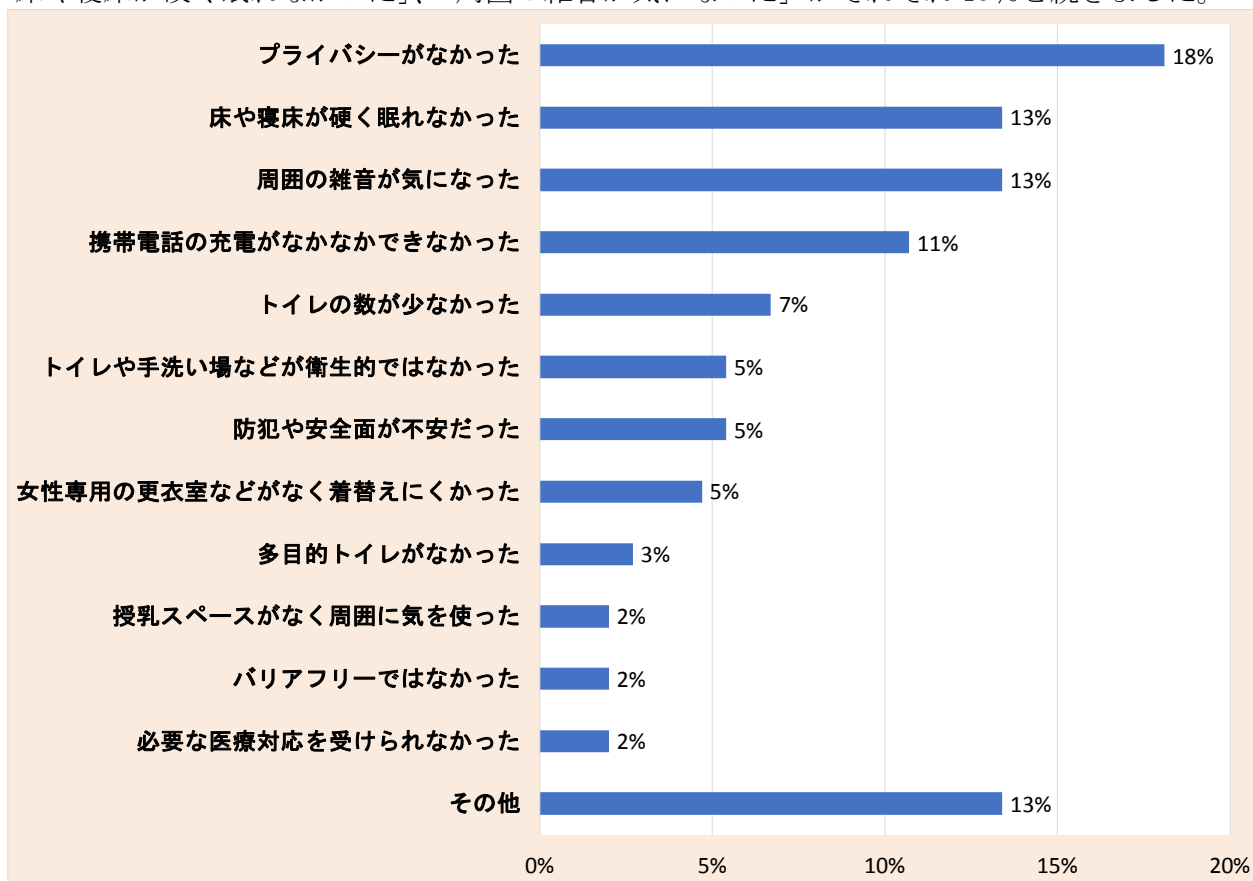


図10 避難先で不便に思ったこと

◎質問：「災害前後に、あなたはどのような手段で必要な情報を得ましたか。」（図 11-1、図 11-2）

災害前後の情報収集手段をおたずねしました。最も多いのが「テレビやラジオ等の公共放送」を6割の方が情報源として挙げています。SNS やインターネットによる交信、検索もそれぞれ多様に利用されていますが、特に、防災行政無線放送（49%）や戸別受信機（34%）、防災アプリ（23%）など自治体諸機関による多様な情報発信が幅広く届けられていることがわかります。また「ライン等による家族・親戚・友人との交信」は24%、「会話による情報交換」も18%あり、口コミも参考にされています。また朝日・橘・北方とそれ以外の地区でみますと、「防災行政無線放送」と「戸別受信機」が前者においてより多く情報源となっています。

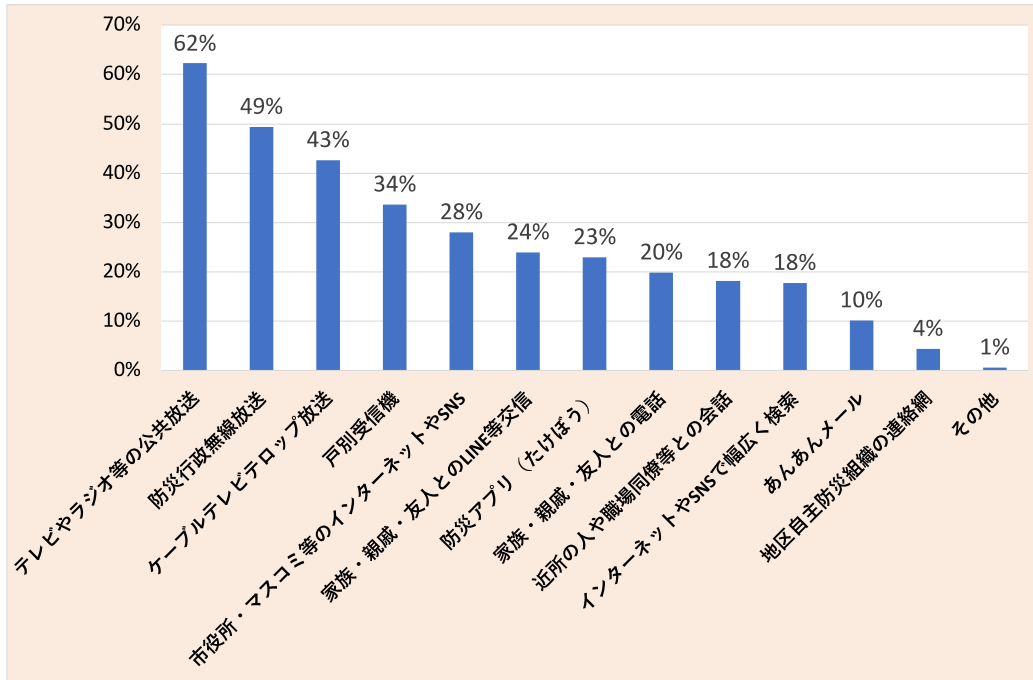


図 11-1 災害前後の情報入手手段（全体）

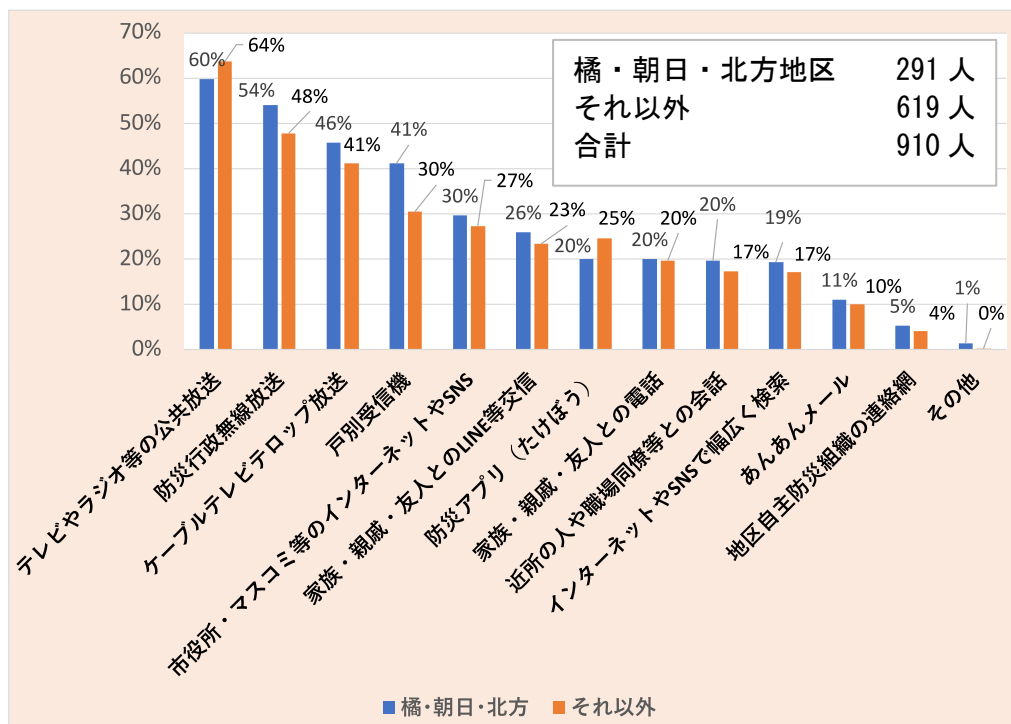


図 11-2 災害前後の情報入手手段（地区別）

◎質問：「以下の情報がうまく得られず、困ったことがありましたか。」(図 12-1、図 12-2)

つぎに情報収集のうえで困ったことについておたずねしました。最も多かったのが「災害の成り行きに関する情報」で 36%でした。つづいて「避難の決断に関わる情報」が 30%、「避難経路の情報」が 27%でした。このことから、情報入手手段は多様に存在する一方で、おひとりおひとりが避難のタイミングを押し量っている様子が伝わってきます。さらに朝日・橘・北方とそれ以外の地区で分けてみると、「災害の成り行きに関する情報」や「避難経路の情報」などより具体的な避難行動の情報がうまく得られず困っていたことがわかります。また、グラフには示しませんが、「お子さん連れ」と「介護を要する方」に避難時の困難さについて尋ねた質問では、「避難するタイミングが難しかった」という回答がもっとも多く、それぞれのご家庭の状況による判断の難しさがわかります。

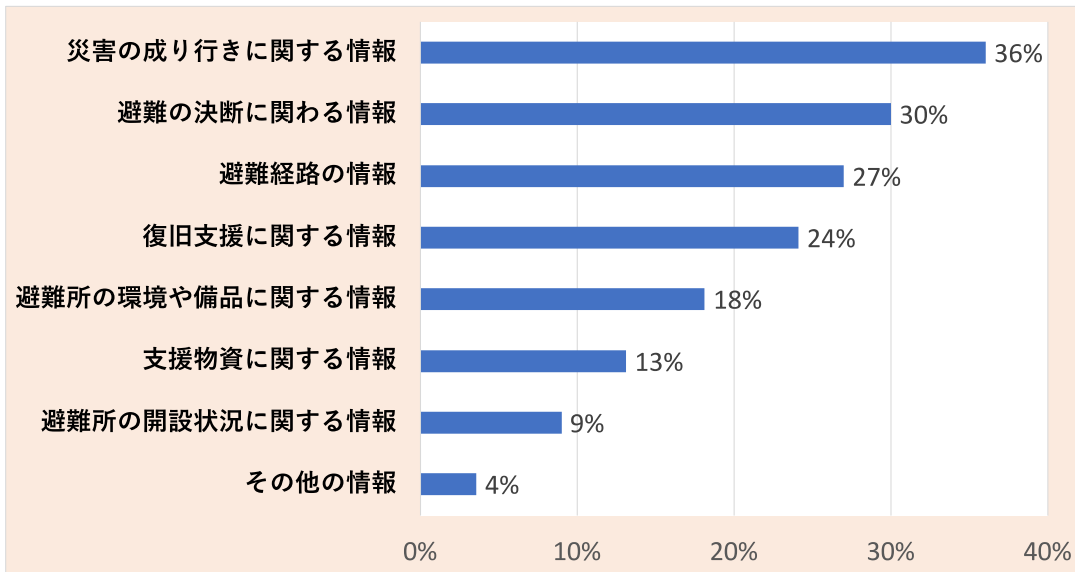


図 12-1 情報がうまく得られず困ったこと (全体)

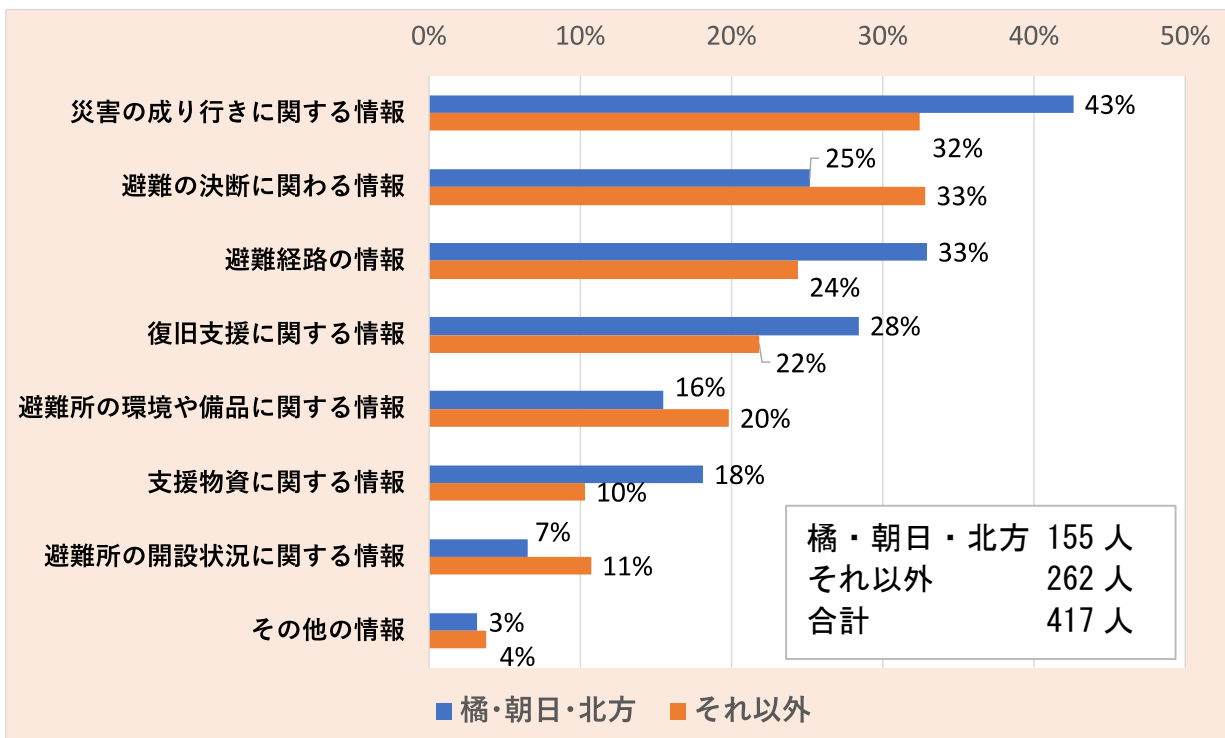


図 12-2 情報がうまく得られず困ったこと (地区別)

◎質問：「あなたは、被災時や避難所生活の中で、以下のようなことで家族以外の人の手助けをされましたか。」（複数回答：図 13-1、図 13-2、図 13-3）

被災時に家族以外へ行った手助けについてうかがいました。「物資の提供」がもっとも多く、幅広い援助行動が行われていたことがわかります。さらに朝日・橘・北方地区では、より積極的に「被災したお宅の復旧ボランティアへの参加」が行われています。また全体を被災の有無別で見ますと、「被災なし」より「被災あり」の方が災害時の援助行動がより多くなされていることがわかります。

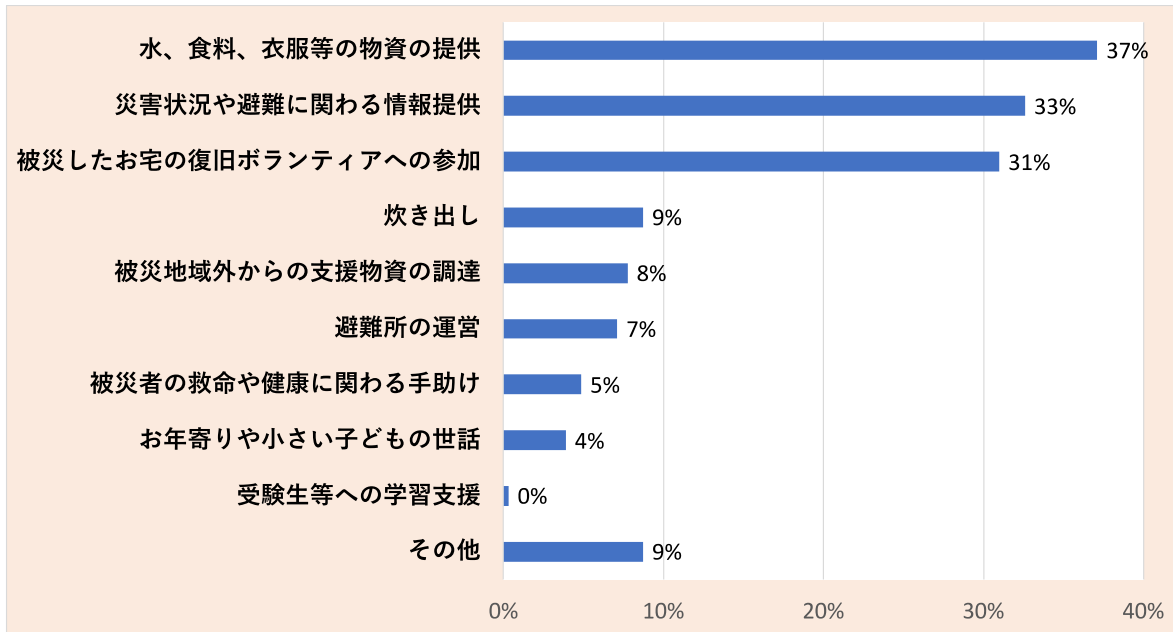


図 13-1 被災時の手助け（全体）

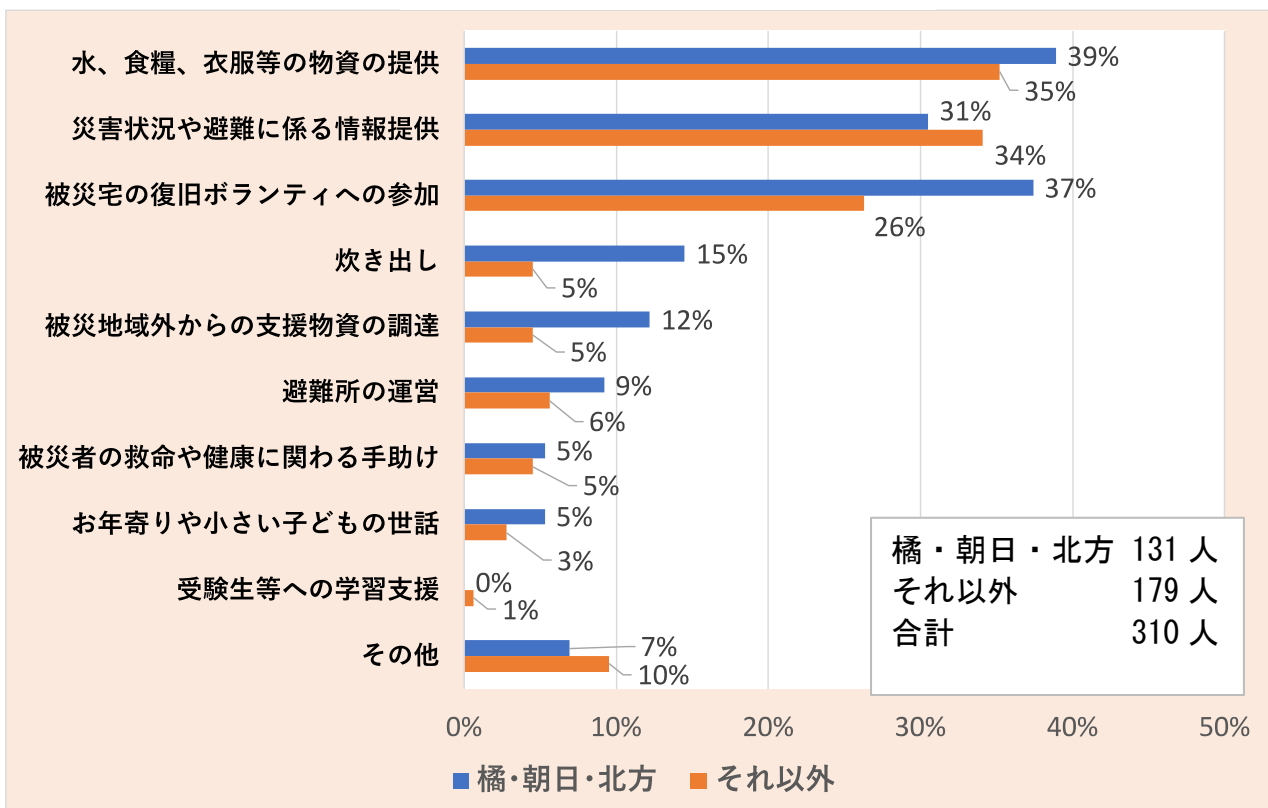


図 13-2 被災時の手助け（地区別）

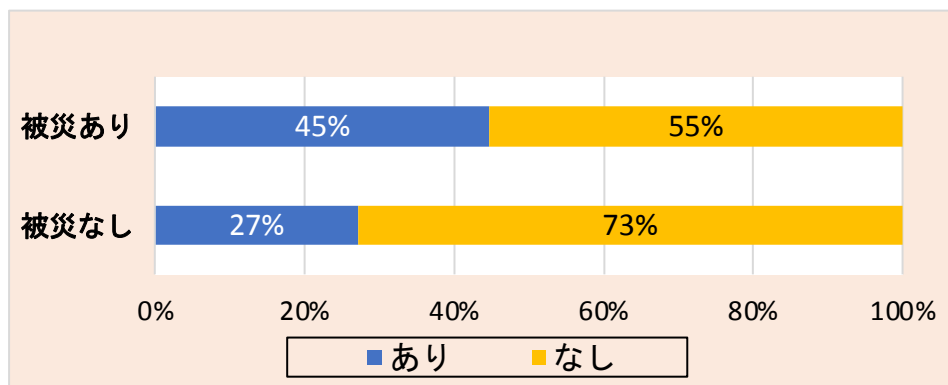


図 13-3 被災時や避難所生活の中で家族以外へ行った手助け（被災有無別）

●Ⅲ 防災とまちづくりのこと =====

◎クロスロードについて

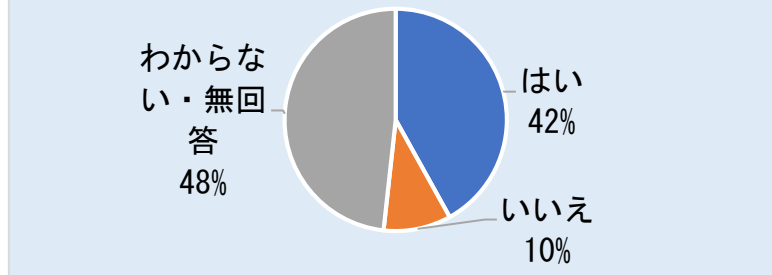
『クロスロード』という防災教育カードゲームがあります。震災のさまざまな体験にもとづいて、YES か NO かの分かれ道を問いにしたものです。それらは必ずしも正解のある問いではありません。皆が回答を持ち寄って、答えるときに悩んだことや考えたことを話し合うことが目的です(ゲームとしては YES か NO の多い方が勝ちとなって、何問かで優勝者を決めます)。今回は調査の形ですので皆でワイワイとはいきませんが、調査票の中に 2 つのクロスロード形式の問いをおきました。その回答の集計結果をお示しすることで、ご自分のお考えと市民の皆さんのお考えを比較する機会になればと思います。

◎クロスロード避難者編の質問:「仮に、あなたが以下の状況にあった場合に、自分なら申し出をするかどうかをお考えいただき、直感的で結構ですので、「はい」か「いいえ」でお答えください。」(図 14)

- ・あなたは、大きな災害にあつて地域の避難所に避難した市民です。
- ・避難所は地域の役員さんたちが仕切ってくれていますが、大変そうです。自分も仕事の経験を生かして力になれるのですが、日頃自治会に参加していないので、入っていきにくい雰囲気です。避難で疲れている様子の家族も気になります。
- ・あなたは、協力を申し出ますか。

この問いの回答は、「はい」が 42%で「いいえ」を大きく上回りました。しかし「わからない・無回答」が半数近くいます。こんなに答えに迷う人が多いのはなぜでしょうか。その理由を考えながら、ぜひ近くの方々と、この場面で「協力」を後押しする力や逆に押しとどめる力について話し合ってみてください。

図14 避難した市民として地域の役員へ協力を申し出るか

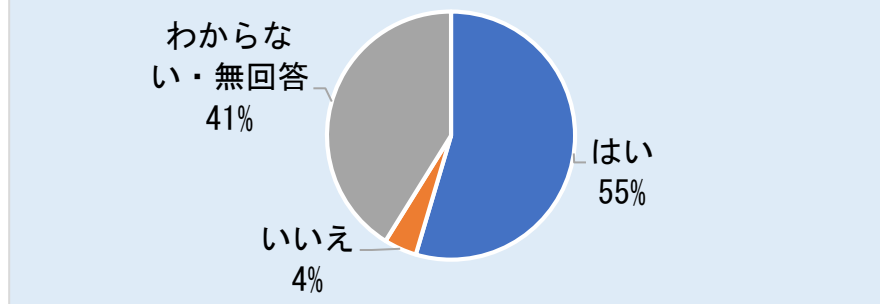


◎クロスロード運営者編の質問:「仮に、あなたが以下の状況にあった場合に、自分なら申し出をするかどうかをお考えいただき、直感的で結構ですので、「はい」か「いいえ」でお答えください。」(図 15)

- ・あなたは、避難所の運営責任をもつ地域リーダーです。
- ・大きな災害が起きて避難所を開設しましたが、日頃から一緒に地域運営を行っている仲間はわずかしかいません。避難者からボランティアを募って何とか自分たちで運営をと考えていたところ、ある支援団体から運営スタッフ派遣の申し出がありました。
- ・あなたは、支援団体の申し出を受け入れますか。

この問いの回答も、「はい」が「いいえ」を大きく上回りました。「わからない」という回答も41%ありますが、先ほどの質問よりはやや少なめです。運営者も被災者なのだから楽しめるならその方がよいのですが、外部の支援に「おまかせ」になってしまうのも心配です。この質問についてもぜひ、行政を含めた外部支援に依存することの一長一短について話し合ってみてください。

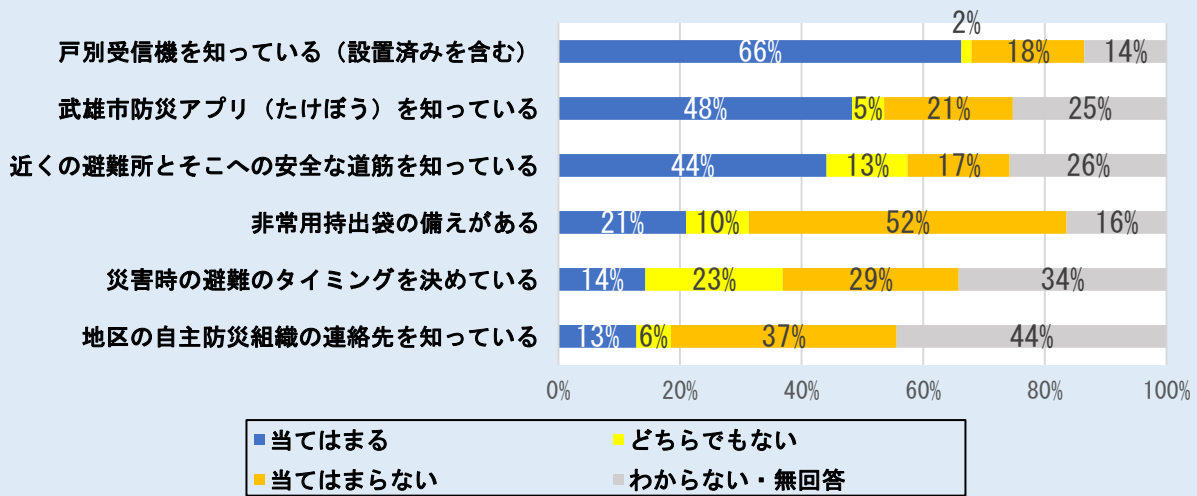
図15 避難所の運営責任リーダーとして支援団体の申し出を受け入れるか



◎質問:「防災に関する以下のことは、あなたに当てはまりますか。」(図 16)

日頃の防災の認識についてうかがいました。「戸別受信機を知っている(設置済みを含む)」と答えた方が66%、「武雄市防災アプリ(たけぼう)を知っている(使用中を含む)」と答えた方が48%いる一方で、「災害時の避難タイミングを決めている」と答えた方は14%しかいませんでした。いざ避難する際のタイミングについて、予め決めていない方が多いようです。

図16 防災に関する認識



◎質問：「地域で防災・減災まちづくりの取り組みを進める際に、あなたは、どういう条件があれば参加・協力しやすいと思いますか。」（複数回答：図17、もっとも重要なもの：図18）

こういう条件があればまちづくりの取り組みに参加・協力しやすくなる、という条件をご提案いただきました。上位2つ、「時間の自由(自己裁量)がきく」と「自宅や職場の近くで参加できる」は回答者のほぼ半数が選択されています。「一緒に参加する仲間がいる」がそれに続きます。そのうちもっとも重要なものを1つ、選んでもらいました。項目順位は全体に大きく違いませんが、トップは「時間の自由(自己裁量)がきく」でした。

図17 防災・減災まちづくりを地域で進める際に、参加・協力を促す条件

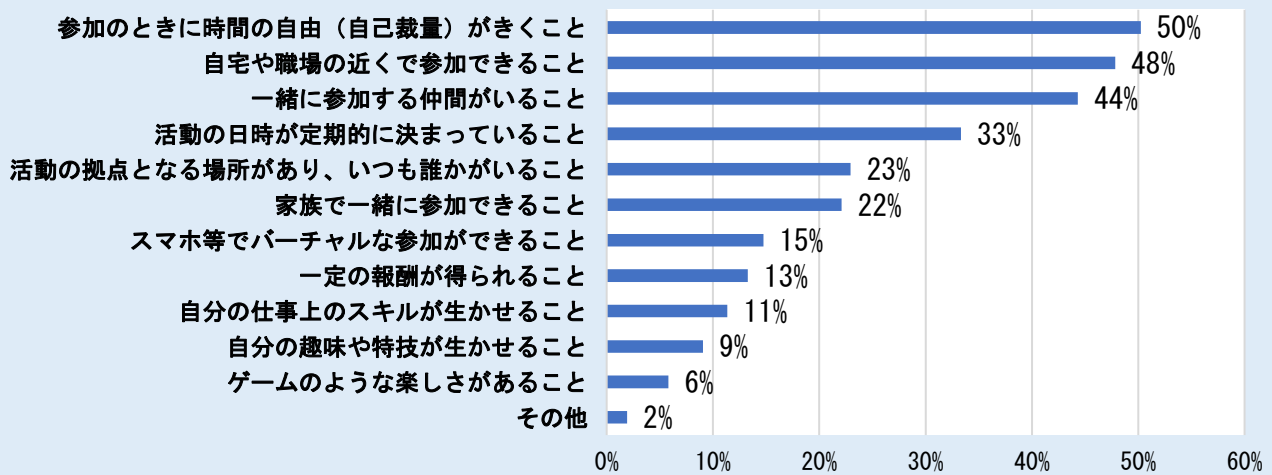
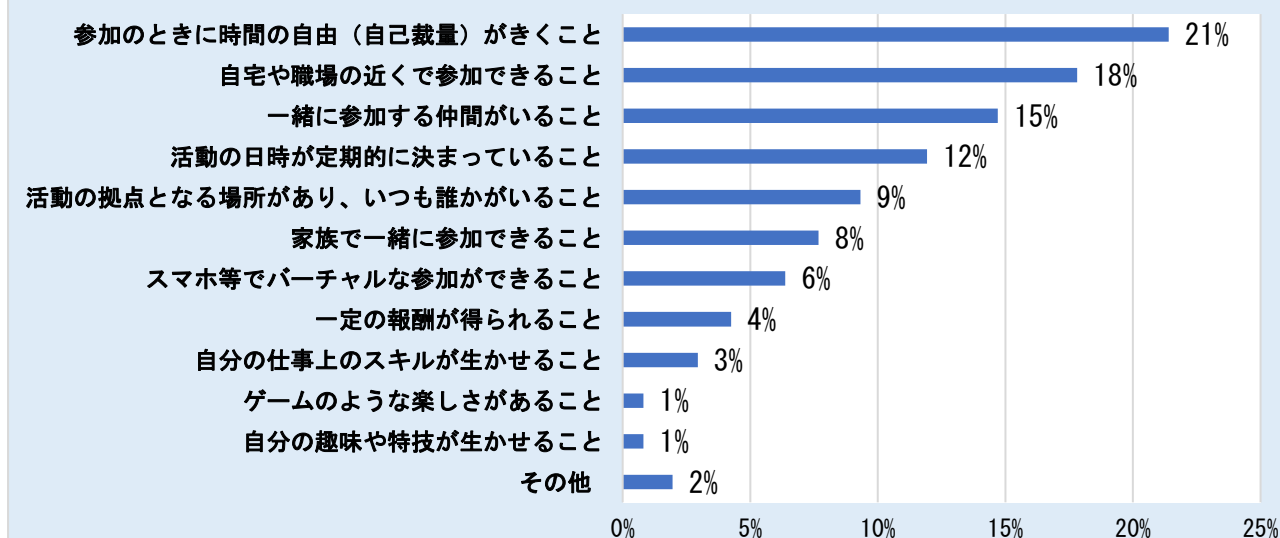


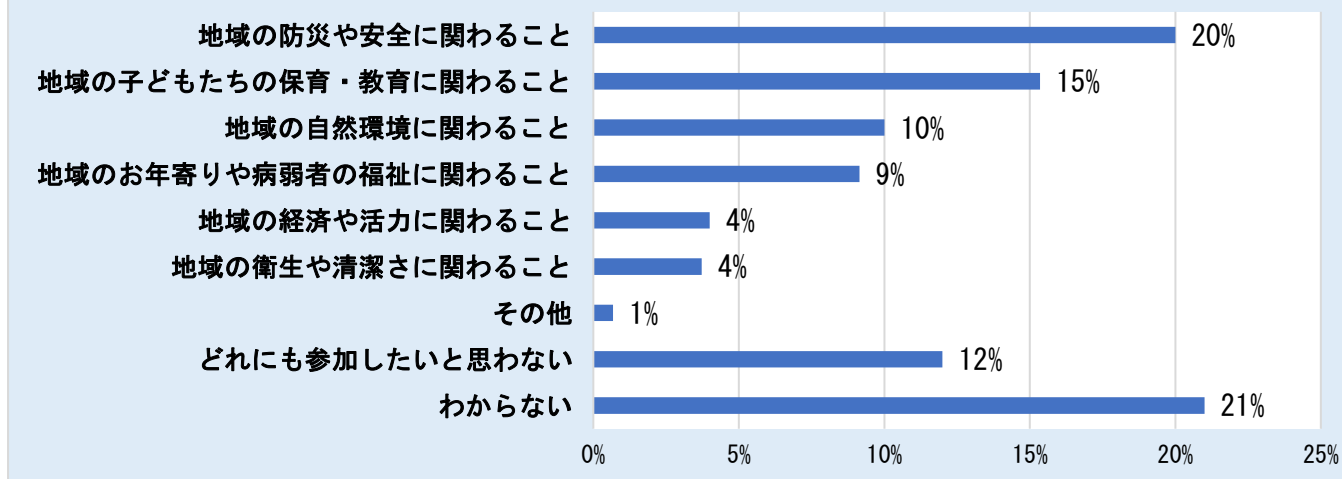
図18 参加・協力を促す条件 もっとも重要だと思うもの



◎質問：「あなたが参加してみたいと思うまちづくりの取り組みは、下記の中にありますか。（もっとも参加してみたいと思うもの1つ）」。（図19）

参加してみたいと思うまちづくりの取り組みをうかがいました。トップは「地域の防災や安全」で、「地域の子どもたちの保育・教育」が2位です。

図19 参加してみたいと思うまちづくりの取り組み

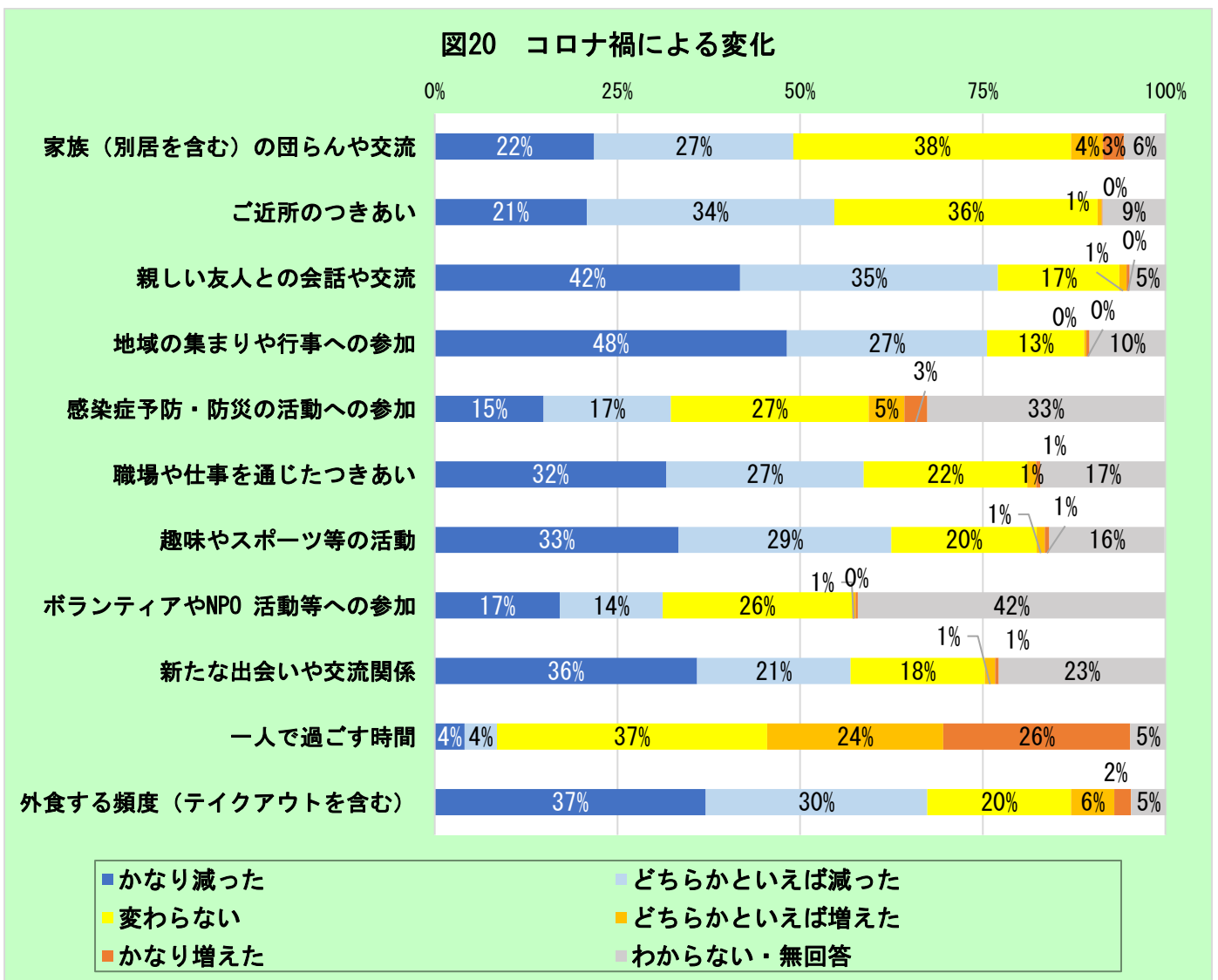


●IV コロナ禍のこと =====

今回の調査では感染症も災害の一種として、令和3年（2021年）8月豪雨災害とともに、コロナ禍での生活のご様子についていくつかうかがいました。

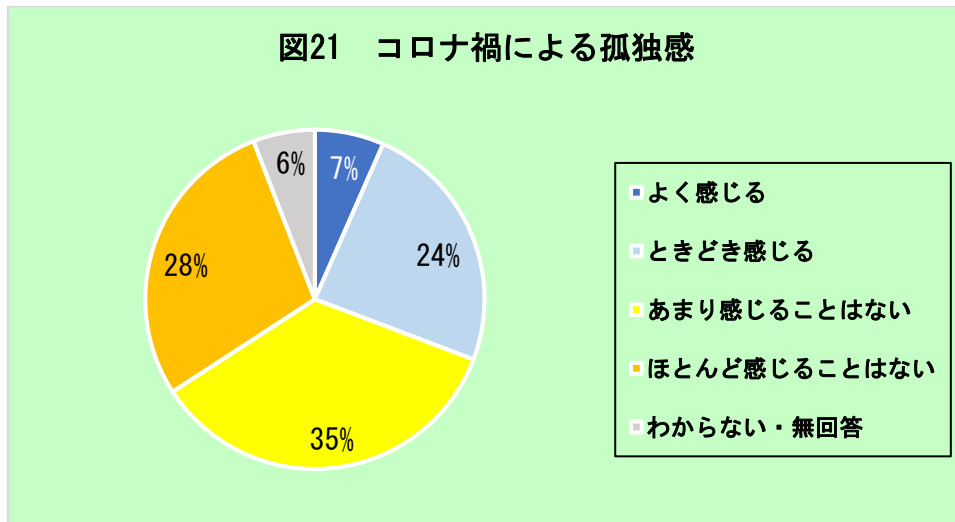
◎質問：「コロナ禍によって、以下にあげたことについて、変化はありましたか。」（図20）

コロナ禍による社会的交流や活動の変化についてうかがいました。程度を問わず減ったか増えたかで見ますと、「一人で過ごす時間」が「増えた」が50%、「親しい友人との会話や交流」が「減った」が77%と格段に高い数値です。「減った」割合は、「地域の集まりや行事への参加」、「職場や仕事を通じたつきあい」、「趣味やスポーツ等の活動」が高いです。一方、「増えた」がやや多いのは、「家族の団らんや交流」7%と「感染症予防・防災の活動への参加」8%、「外食する頻度」8%です。



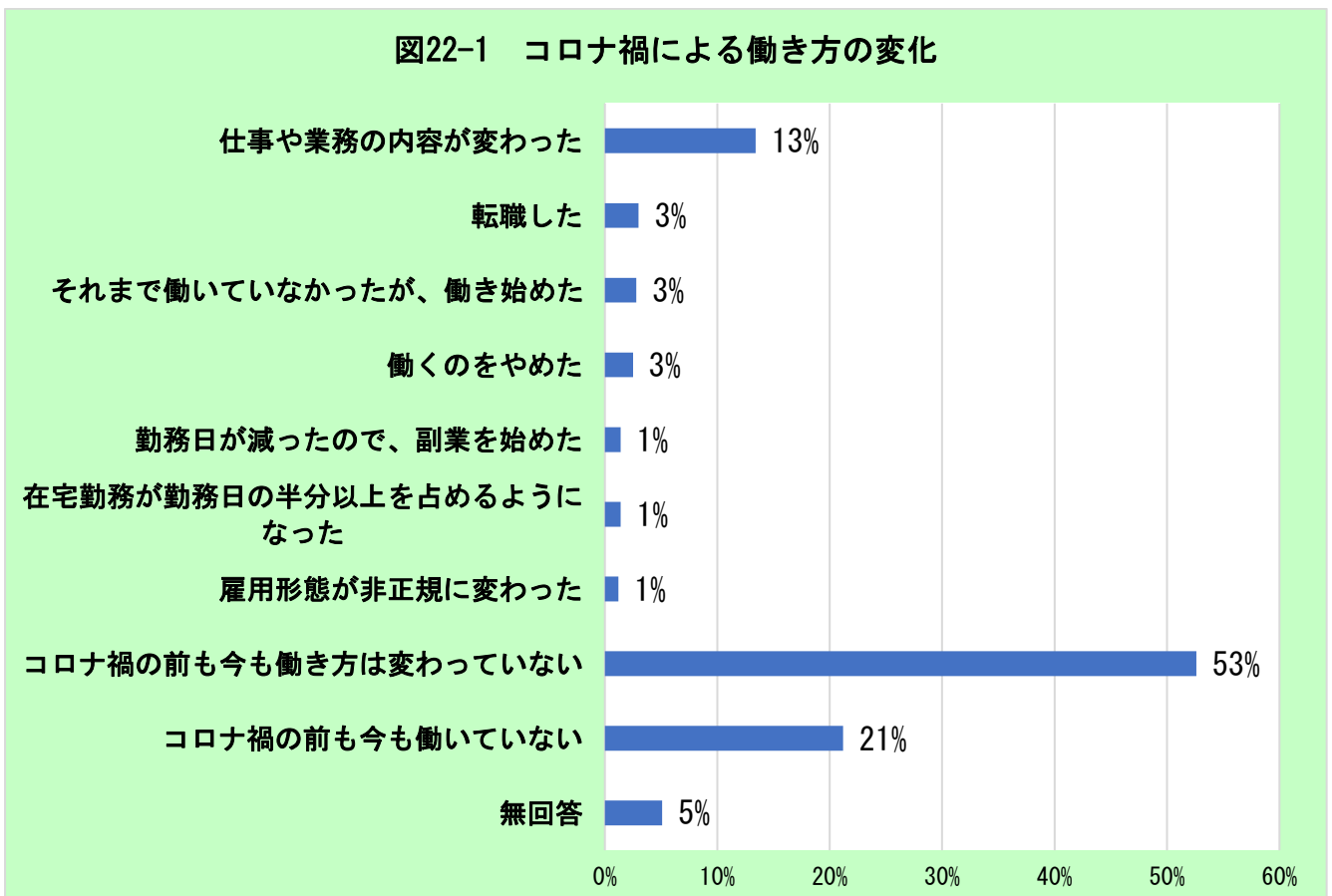
◎質問：「あなたは、コロナ禍の状況で孤独感や孤立感を感じるがありますか。」（図 21）

コロナ禍のもとでの孤独感についてたずねました。程度を問わず「感じる」という回答が 31%あります。



◎質問：「コロナ禍の影響で、あなたの働き方は変わりましたか。」（複数回答：図 22-1、図 22-2）

コロナ禍による働き方の変化については、「仕事や業務の内容が変わった」の 13%をはじめ、「転職した」、「それまで働いていなかったが、働き始めた」、「働くのをやめた」等 5%未満の比率ではありますが、さまざまな変化が報告されています。これらの「変化あり」（ただし「在宅勤務化」を除く）をひとまとめにして、前述の「孤独感」との関連をみたのが図 22-2 です。この結果から、働き方の変化と孤独感に一定の関連があることがわかります。



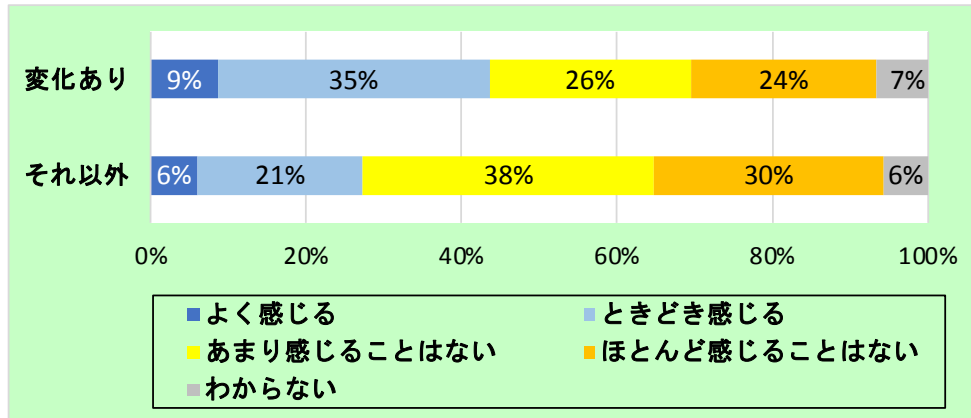


図 22-2 コロナ禍の状況で孤独感や孤立感を感じることはあるか

◎質問：「コロナ禍は、あなたのお宅のここ1年間の年収にどのように影響しましたか。」(図 23)

コロナ禍にともなう収入状況の変化をうかがいました。「増えた」と答えた人もわずかながらおられますが、それを含めて7割近くが変化なしです。一方で、「減った」は16%を占めます。グラフには示しませんが、そのうちどの程度「減った」かの割合は平均36%です。50%以上「減った」方は20%おられます。

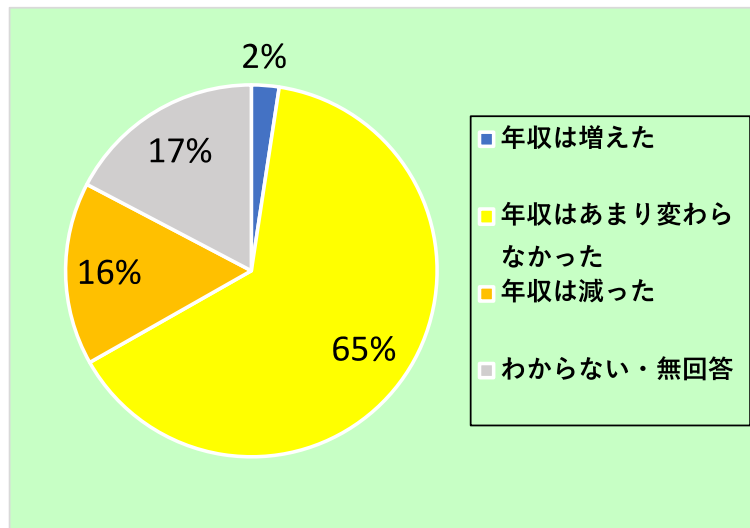


図 23 コロナ禍による年収の変化

●V 武雄への思い =====

今回の調査では、武雄の魅力と、新幹線への期待について、自由に回答してもらいました。以下は、比較的回答が多かった言葉がどのように語られているかをグラフにしたものです。円の大きさは、言及されることが多かった言葉であることを、また、線で結ばれた言葉は同じ回答の中で使われることが多かった言葉であることを、示します。

すべてをご紹介できないのは残念ですが、市民の皆さんの武雄への思いを互いに知る手がかりにいただければと思います。いただいたご意見は、九州大学が武雄市と連携して行うまちづくり支援の取り組みの中で生かして参りたいと思います。

◎質問：「あなたがお勧めの武雄の魅力を教えてください。（お勧めの場所、建物や施設、お店、景観、通りや散歩道、お祭りや行事、人びとの取り組み、人物、動植物など、どんなことでも結構ですので、できるだけ具体的にお教えてください。）」

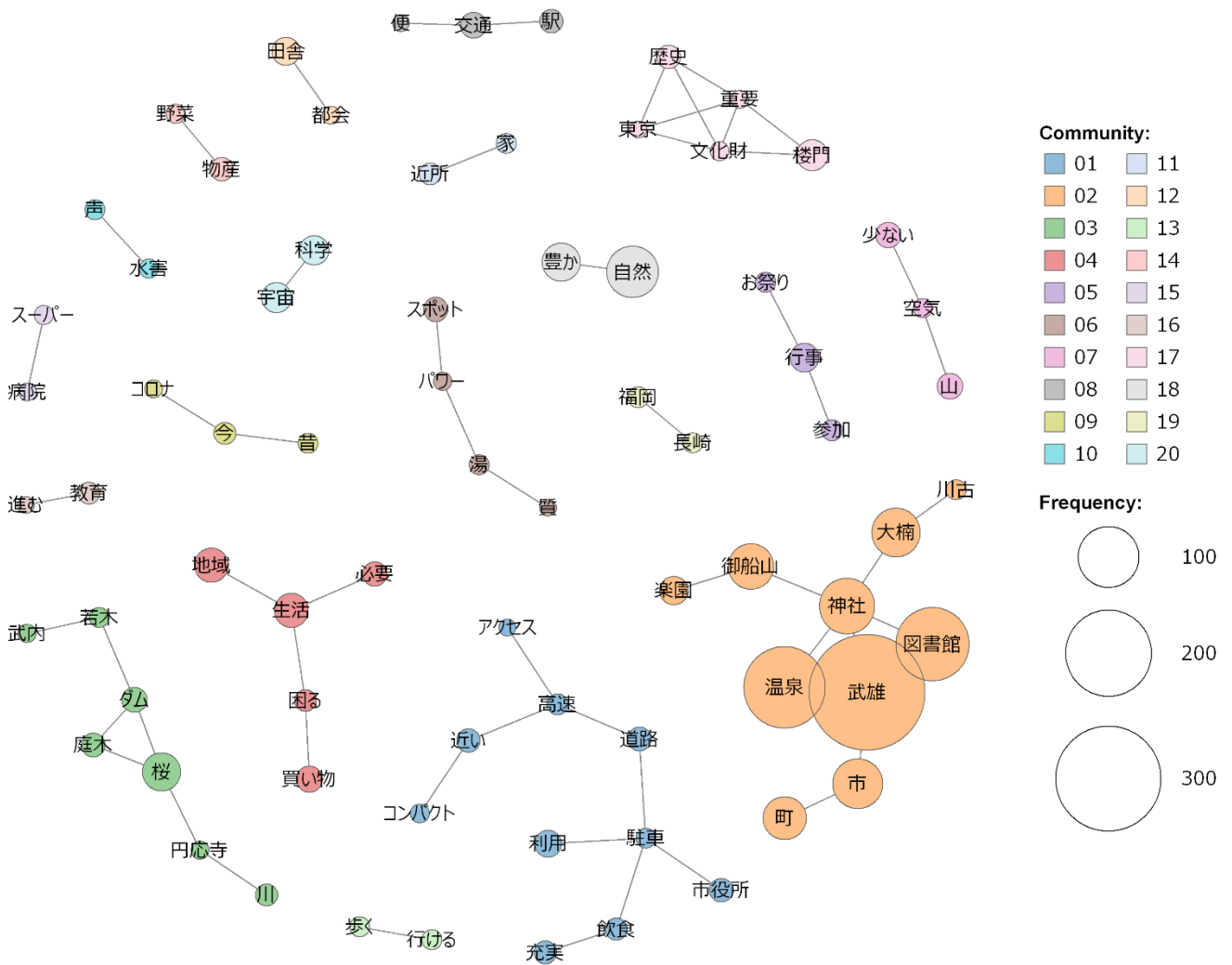


図 24-1 武雄の魅力：全体でみた特徴的な言葉

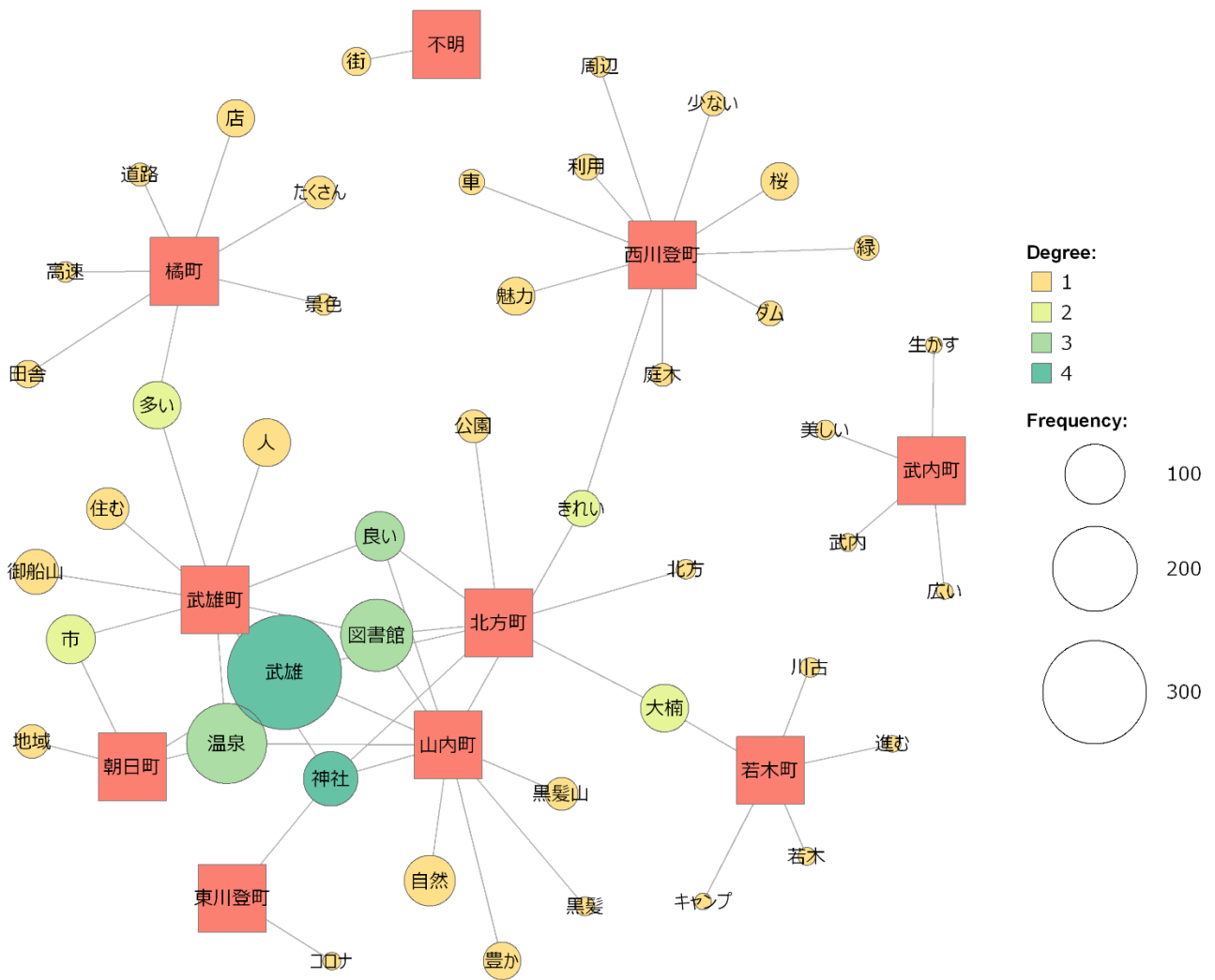


図 24-2 武雄の魅力：地区別でみた特徴的な言葉

◎質問：「あなたが新幹線開通に期待することがありましたら、お教えてください。」

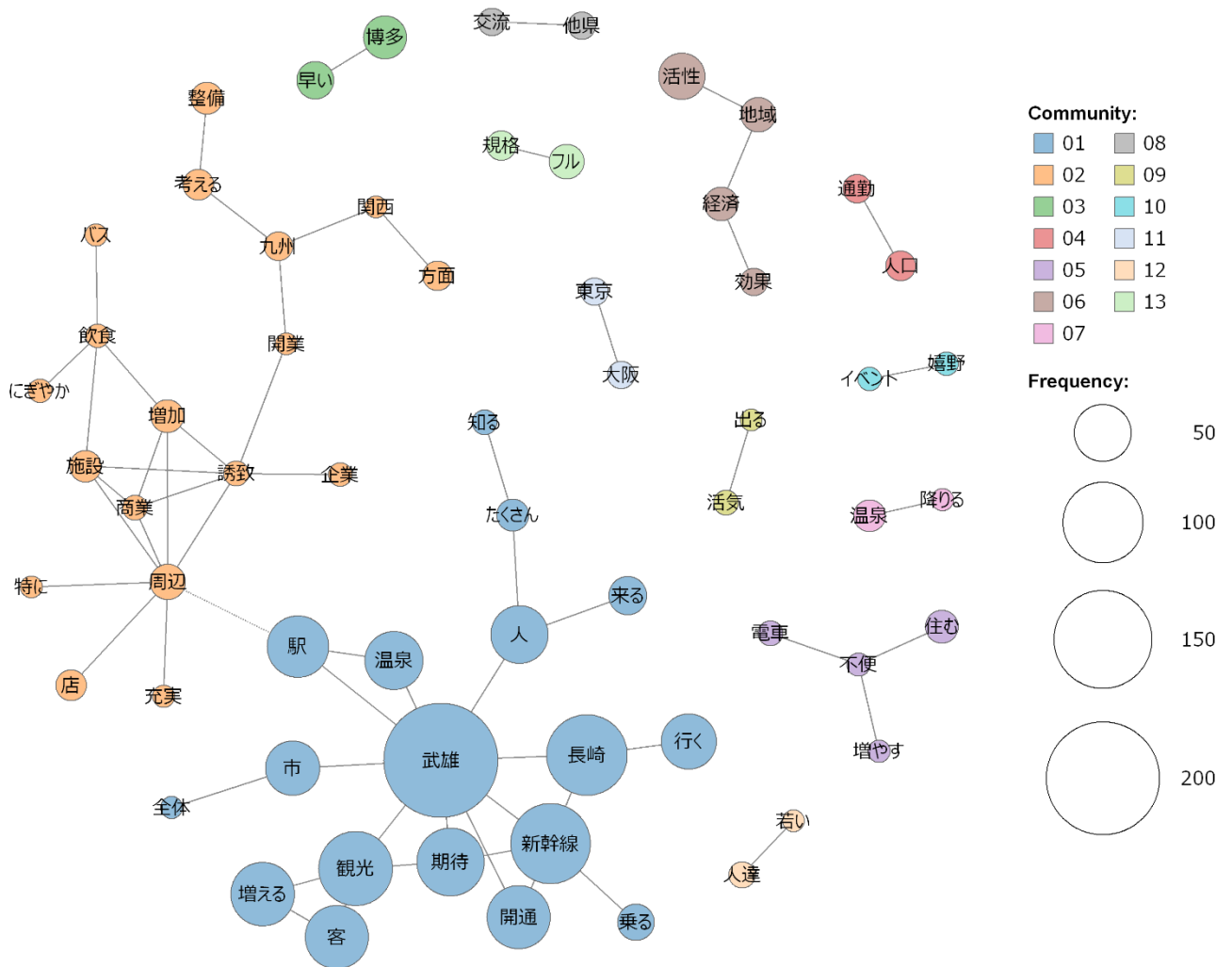


図 25-1 新幹線への期待：全体でみた特徴的な言葉

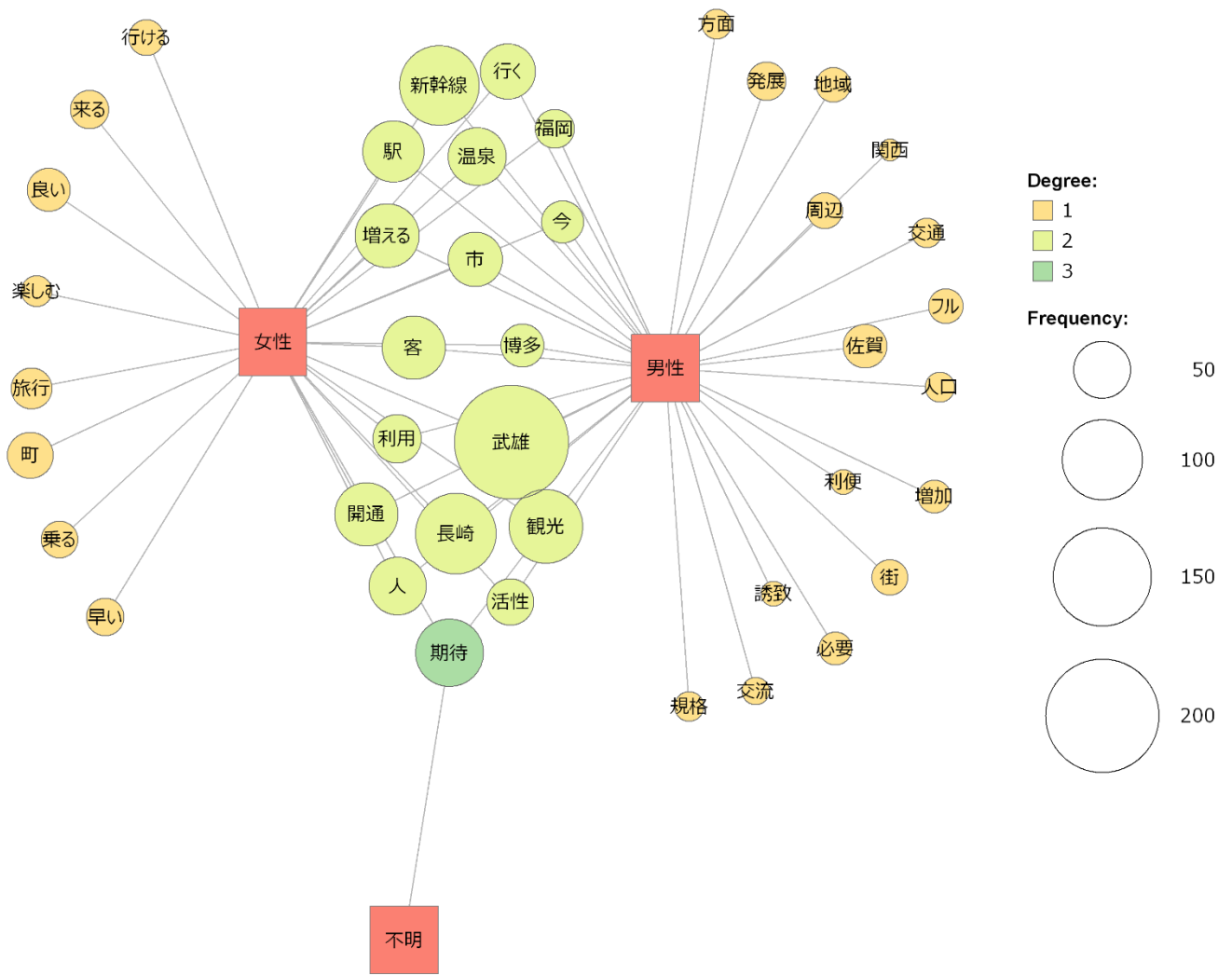


図 25-2 新幹線への期待：性別でみた特徴的な言葉